

ご使用前に必ずお読みください

三菱トラクタ

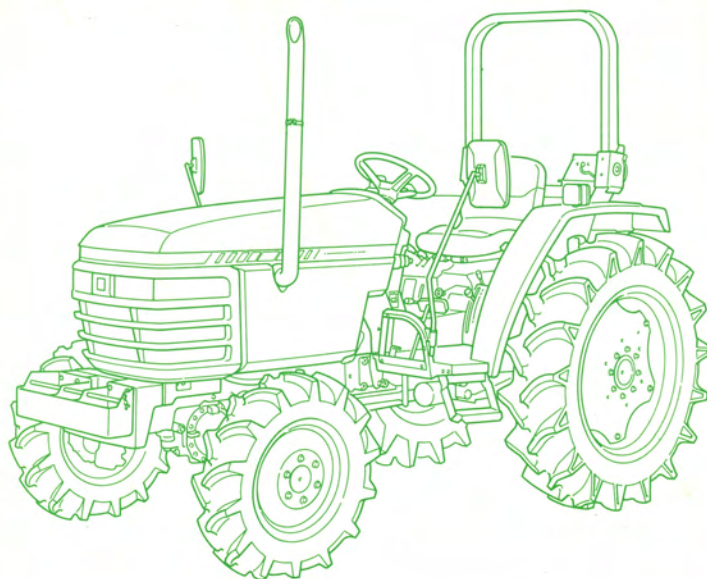


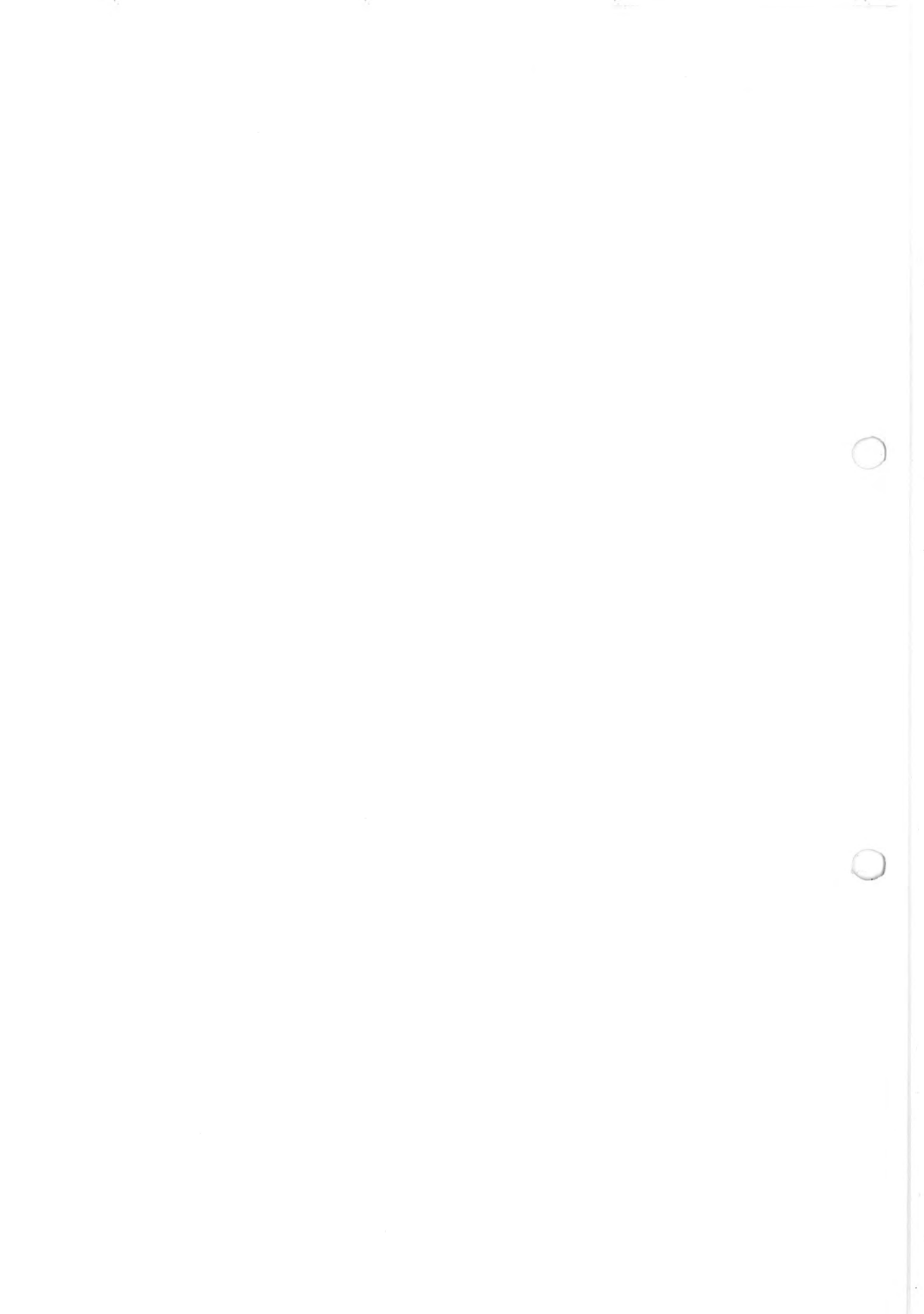
95/6

MT400・MT460

パルシードGP

取扱説明書





三菱トラクターを お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は **三菱トラクター** の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社または当社の特約店・販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・農協にご相談ください。
-  印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載してあります。使用前に必ずお読みください。

- このトラクターの運転には、大型特殊自動車免許が必要です。道路走行時には、必ず免許証と、自動車検査証を所持してください。
- 車検を必ず受けてください。

安全に作業をするために	4
サービスと保証について	24
公道走行とナンバープレートについて	25
仕様について	26

1

各部のなまえ	27
安全銘板の貼り付け位置	29
各部のはたらき	31

2

運転と作業のしかた	39
1. 作業前の点検	39
2. ならし運転(最初の50時間)について	42
3. エンジンの始動・停止のしかた	42
4. 作業機を上下させるには	45
5. 作業機の降下速度の調節のしかた	45
6. 発進・停止・駐車 of のしかた	46
7. 道路走行のしかた	47
8. 坂道での運転のしかた	48
9. パワーステアリングについて	49
10. ほ場への出入りのしかた	49
11. 作業に適した速度の選びかた	50
12. ほ場での旋回のしかた	51
13. ロータリー耕での耕深設定のしかた	52
14. PAC以外の耕うん作業・ロータリー以外の作業機を使う場合の位置設定のしかた	53
15. ミックスコントロールの使いかた	54
16. デフロックの使いかた	54
17. トラックへの積み込み・積降しのしかた	55
18. 前輪・後輪車輪幅(輪距)について	56
19. 油圧外部の取出しかた	60
20. トレーラコネクタの接続のしかた	60
21. 外部電源・充電コンセントについて	61
22. 3点リンクの取り付けかた	61
23. トップリンクの調節のしかた	63
24. 一般作業機の取り付けかた	63
25. 作業機の取り扱いについての注意事項	64
26. 超低速の取り扱いについての注意事項	65
27. PTO変速レバーの操作のしかた	66
28. スイングドロバの使いかた	66
29. 折りたたみ式安全フレームの使いかた	68
30. マフラー噴出口の角度・高さの変えかた	69

3

ジャストマチック仕様について(J仕様のみ)	70
1. 各部のなまえとはたらき	70
2. 基本的な使いかた	72
3. センサ異常時の表示について	73
4. 使用後の手入れ	73

4 キャビン仕様について(X仕様のみ)

74

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 各部のなまえ……………74 | 5. ヒューズの点検・交換について…………79 |
| 2. ドアの開閉のしかた……………75 | 6. エアコンの使い方……………79 |
| 3. リヤウインド・サイドウインドの開閉のしかた…76 | 7. FM・AM付ラジオカセットの使い方…82 |
| 4. スイッチの使い方……………77 | 8. その他……………82 |

5 作業後の手入れについて

83

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 作業後の手入れ……………83 | 3. 燃料の点検・給油のしかた……………85 |
| 2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた……84 | 4. 長期間使用しない場合の手入れ…………86 |

6 定期の点検・調整について

87

- | | |
|---|--|
| 1. 定期点検一覧表……………88 | 12. 電気配線の点検について……………97 |
| 2. オイル・グリス・不凍液一覧表……………89 | 13. グリシアップ(注入)について…………98 |
| 3. 給油・給水一覧表……………89 | 14. ブレーキの点検・調整について…………99 |
| 4. 各部オイルの点検・交換のしかた…………90 | 15. クラッチの点検・調整について…………100 |
| 5. 各部エレメントの交換のしかた…………92 | 16. ハンドルの点検・調整について…………101 |
| 6. 冷却水の点検・交換のしかた……………93 | 17. ファンベルトの点検・調整について…101 |
| 7. 燃料の空気(エア)抜きのしかた…………94 | 18. トーインの点検・調整について…………102 |
| 8. ウォータセパレータの水抜きのしかた…………95 | 19. ヒューズ・ヒューズブルリンクの
点検・交換について……………102 |
| 9. ラジエータスクリーンとエアクリーナ
エレメントの掃除・交換のしかた…………95 | 20. タイヤの点検について……………103 |
| 10. バッテリーの点検のしかた……………96 | 21. 排気ガスの色について……………104 |
| 11. パイプ類の点検について……………97 | 22. キャビン仕様の点検・調節について…104 |

7 不調診断

107

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. エンジン関係……………107 | 4. 電装関係……………110 |
| 2. クラッチ・ブレーキ関係……………109 | 5. ローター関係……………111 |
| 3. 油圧関係……………109 | |

用語解説

112

仕様

113

標準付属品

115

国検検査成績表

116

配線図

124

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

⚠ 警告 排気ガスには充分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010901

⚠ 警告 こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。



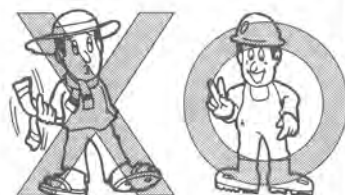
2010902

⚠ 警告 作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2010903

⚠ 警告 シートベルトを必ず装着する

安全フレームを立て、確実に固定し、シートベルトを締めてください。キャビン仕様はシートベルトを締めてください。

【守らないと】

転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。



2010904

警告 操作時はチルトハンドルを固定する

ハンドルの調節時以外には必ず、チルトハンドル操作レバーは「ロック」位置に固定し、テレスコハンドル操作ノブは「LOCK」方向に廻してハンドルを固定してください。

【守らないと】

思うように旋回できずに、事故をおこすおそれがあります。



2010926

警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010905

警告 運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



2010906

警告 エンジン始動時は必ず運転席にすわり
周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



2010966

▲ 注意 マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010970

▲ 注意 機械の改造禁止

純正部品以外の部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010907

▲ 注意 点検・整備をおこなう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010906

▲ 注意 定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホース、ブレーキのホースは2年毎に交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

● 作業前後の確認時の注意事項

⚠ 危険 注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



2010910

⚠ 危険 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



2010911

⚠ 危険 バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。



2010913

⚠ 危険 バッテリ液は体につけないようにする

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。

万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



2010914

⚠ 危険 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



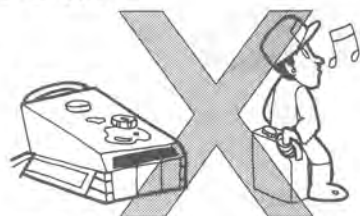
2010915

⚠ 危険 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010916

⚠ 警告 点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠ 警告 マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010924

⚠ 警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

⚠ 警告 ブレーキ・ハンドルの点検を必ずおこなう

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2010926

⚠ 注意 バッテリーの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリーの取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠ 注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

▲ 注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010920

▲ 注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

▲ 注意 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010967

▲ 注意 使用していないPTO 軸にはカバーつける

PTO 軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010944

▲ 注意 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



2010927

● 作業機に関する注意項目

▲ 警告 作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



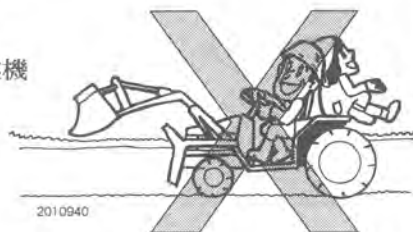
2010939

▲ 警告 人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純性のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010940

▲ 警告 トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010941

▲ 警告

重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。



2010942

▲ 警告

**トラクターに作業機を装着する時は、
作業機の取扱説明書を必ず読む。**

トラクターに作業機を装着する時は、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損をひきおこします。



2010973

▲ 警告

**傾斜地やけん引作業をするときは、
輪距（左右のタイヤ間の幅）を広くする。**

【守らないと】

転倒事故を引き起こすおそれがあります。



2010943

▲ 警告

作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010988

▲ 警告 トレーラをけん引するときの注意

トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを連動（大型特殊自動車）してください。また、坂道での変速はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



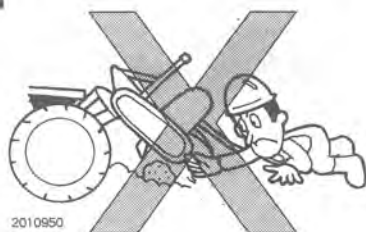
2010947

▲ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



2010950

▲ 警告 ローダー作業時は前後バランスに注意

ローダー作業時は、前後の一方向にバランスがかたよらないように、ウエイトまたは作業機を装着してください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引き起こすおそれがあります。



2010951

▲ 警告 作業機指定の PTO 回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。



2010956

● 運搬時の注意項目

⚠ 危険

積込み、積降し時は左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降し時は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



⚠ 警告

あゆみ板の上では、だ性運転はしない

あゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。

クラッチを踏んだり、主変速、副変速・シャトルレバーを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



⚠ 警告

強度・長さ・幅の充分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が充分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



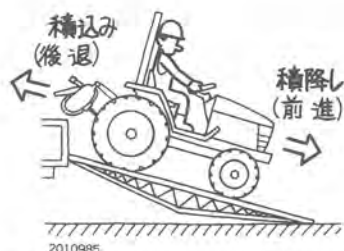
⚠ 警告

登るときは後退、降りるときは前進でおこなう

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進でおこなってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



警告 ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の充分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。



● 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

警告 関係法規を守り安全運転をおこなう

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



警告 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。

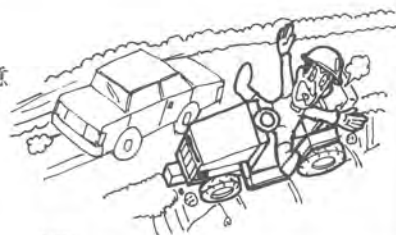


警告 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に充分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。





警告

移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2010932



警告

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ 禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、充分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



2010933



警告

坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。



2010934



警告

坂道やあゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。クラッチを踏んだり、主変速、副変速・シャトルレバーを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010935

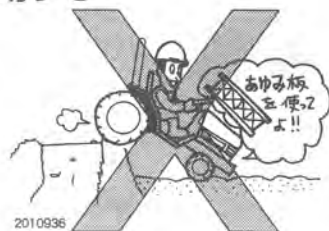
警告

溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



2010936

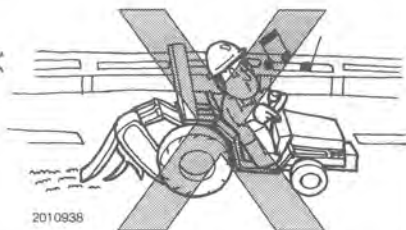
警告

公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引き起こすおそれがあります。



2010938

警告

公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



2010987

注意

暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひき起こすおそれがあります。



2010937

●作業時の注意事項

▲ 警告 ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010948

▲ 警告 爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

▲ 警告 子供を近づけない

子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010952

▲ 警告 ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010953

▲ 警告

あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2010954

▲ 警告

わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010955

▲ 警告

エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、ポジションレバー「最下」、PACレバー「解除」にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下り、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010968

▲ 警告

**機械から離れるときは平坦地に置き
エンジンを止める**

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。



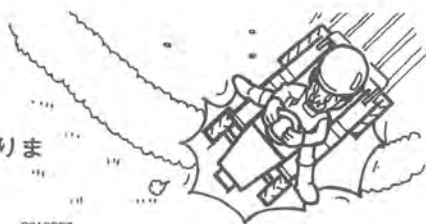
2010958

⚠ 警告 旋回時はデフロックを切る

必ずデフロックを切って旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引き起こすおそれがあります。



2010957

⚠ 警告 けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



2010985

● 作業終了後・格納時の注意項目

⚠ 危険 注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



2010910

⚠ 危険 ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。



2010912



危険

シートは機械が充分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが充分冷めてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010965



警告

点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922



警告

マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010924



警告

電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

▲ 警告

長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



2010964

▲ 注意

長期格納時はクラッチを切っておく

長期間格納する際には、必ずクラッチペダルをロック「切」状態にしてください。

【守らないと】

クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。



2010969

▲ 注意

高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010967

▲ 注意

バッテリーの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリーの取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010917

▲ 注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

▲ 注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010920

▲ 注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

サービスと保証について

保証書について

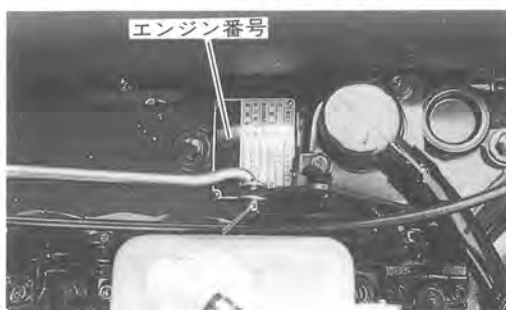
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、107ページの「不調診断」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

トラクターの保証

※エンジンおよび本機で封印されている所はさわらないでください。性能を大きく悪くするばかりか、封印が外れたと認められる場合は、一切の保証を受けられなくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧くださいようお願いいたします。

大型特殊自動車としての取扱い

このトラクターは、大型特種自動車として、次の手続きが必要です。くわしいことは、お買上げいただいた販売店にご相談ください。

登録について

大型特殊自動車として登録申請し、ナンバープレートの交付を各陸運事務所を受けなければなりません。

自動車保険

大型特種自動車の運行には、自動車損害賠償責任保険が必要です。

免許

このトラクターの運転には、大型特種自動車の免許が必要です（自動車の普通免許では運転できません）。道路走行時には、必ず免許証と、自動車検査証を所持してください。

車検

自動車検査証の有効期間は2年間です。有効期間の切れるまでに車検を受けなければなりません。

整備

このトラクターを運転する場合、1日1回は運転の前に点検を行ってください。また、6か月ごとに点検整備をしなければなりません。なお、くわしくは87ページの定期の点検・調整の項を参照してください。

輪距

道路走行は、必ず次の輪距にして走行してください。これを怠ると、「道路運送車両の保安基準」違反になり、道路走行はできません。

警告

- 公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

		前 輪		後 輪	
		タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)
MT-400	安フレ仕様 キャビン仕様	8-16	1250	12.4-28 13.6-26	1270
MT-460	安フレ仕様 キャビン仕様	8-18 9.5-16	1290 1300	13.6-28	1270

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

仕様記号

ジャストマチック仕様 J
エアコンキャビン仕様 X
スーパーヒッチ仕様 Y

サイドロータリー仕様 S
※ロータリーにつきましては、ロータリーの取扱
説明書をご覧ください。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

方向・位置マークについて



2010407A

本機のどの位置にあるか、「見ている方向」をあらわしています。

各部のなまえ

説明図は、MT400を基準にしています。

ステアリングホイール

安全フレーム

マフラー

ボンネット

ドライバーシート

ヘッドランプ

リアフェンダ

エンジンカバー

PTO
変速レバー

右側

機体後方

フロントアクスル
ブラケット

機体前方

フロントタイヤ

クリープレバー

補助ステップ
油圧ストップバルブ兼
フローコントロールバルブ

左側

ブレーキランプ
および
テールランプ

フラッシュランプ
(車幅灯)

トップリンク

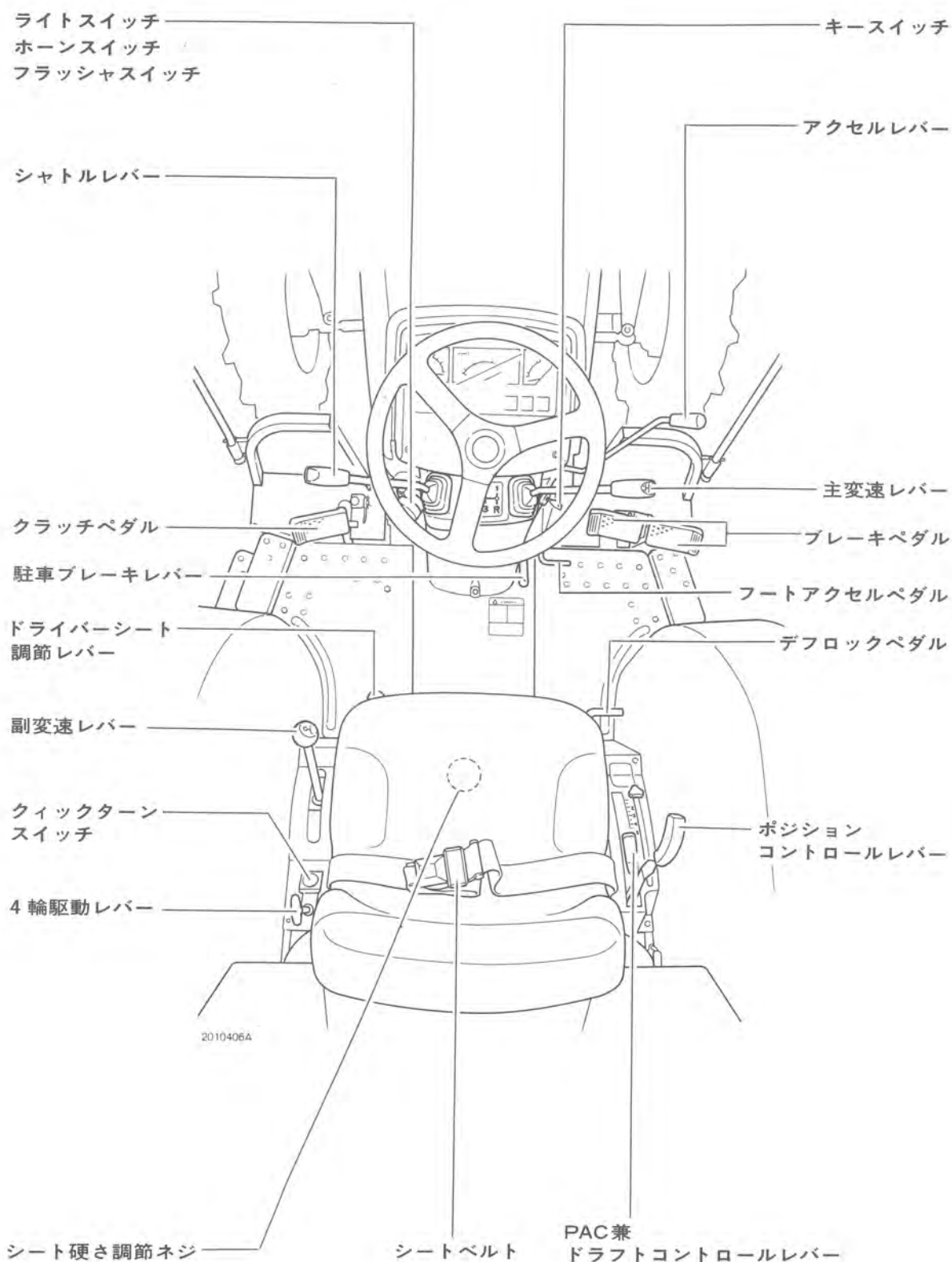
フートガード

ロアリンク

2010402A

リヤタイヤ

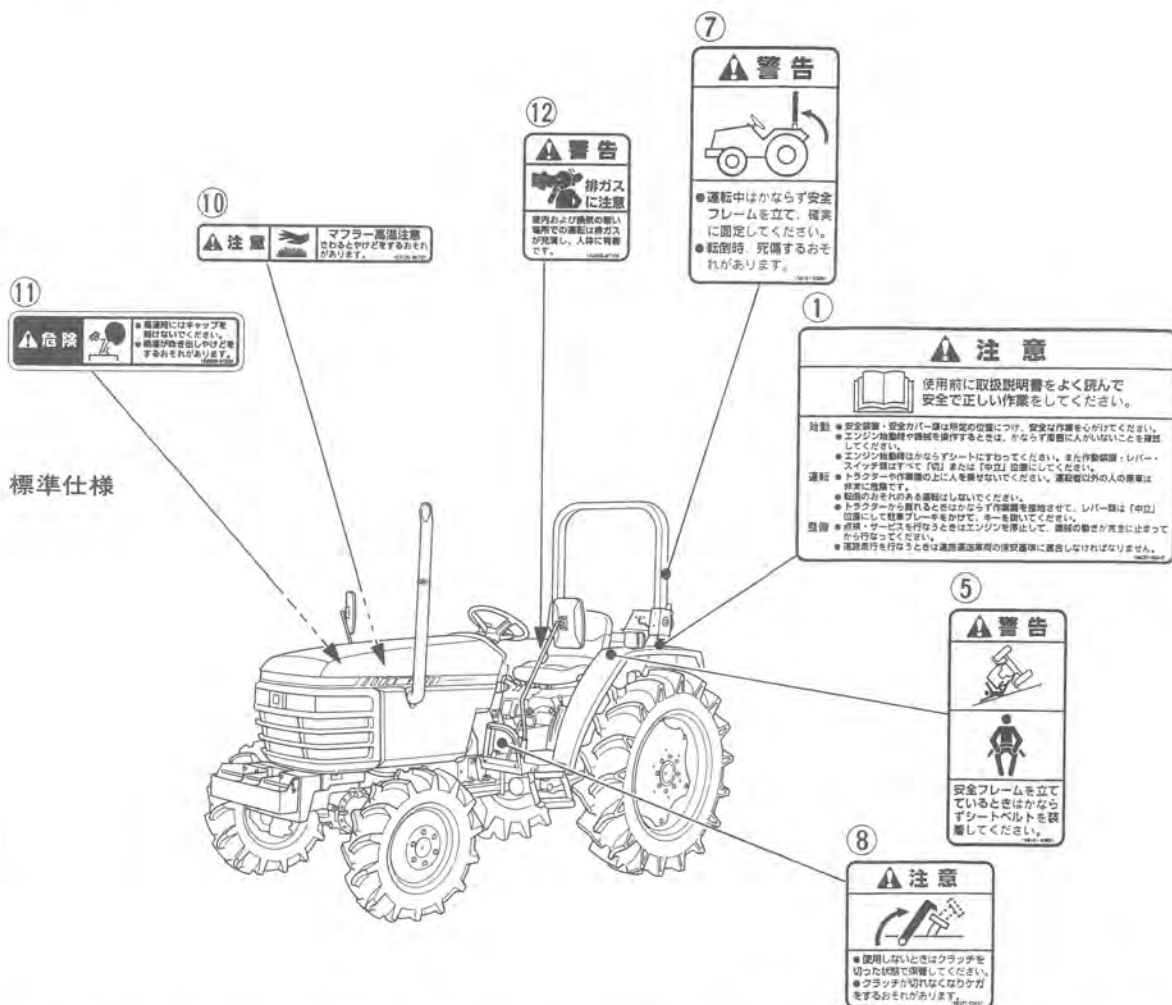
燃料タンク



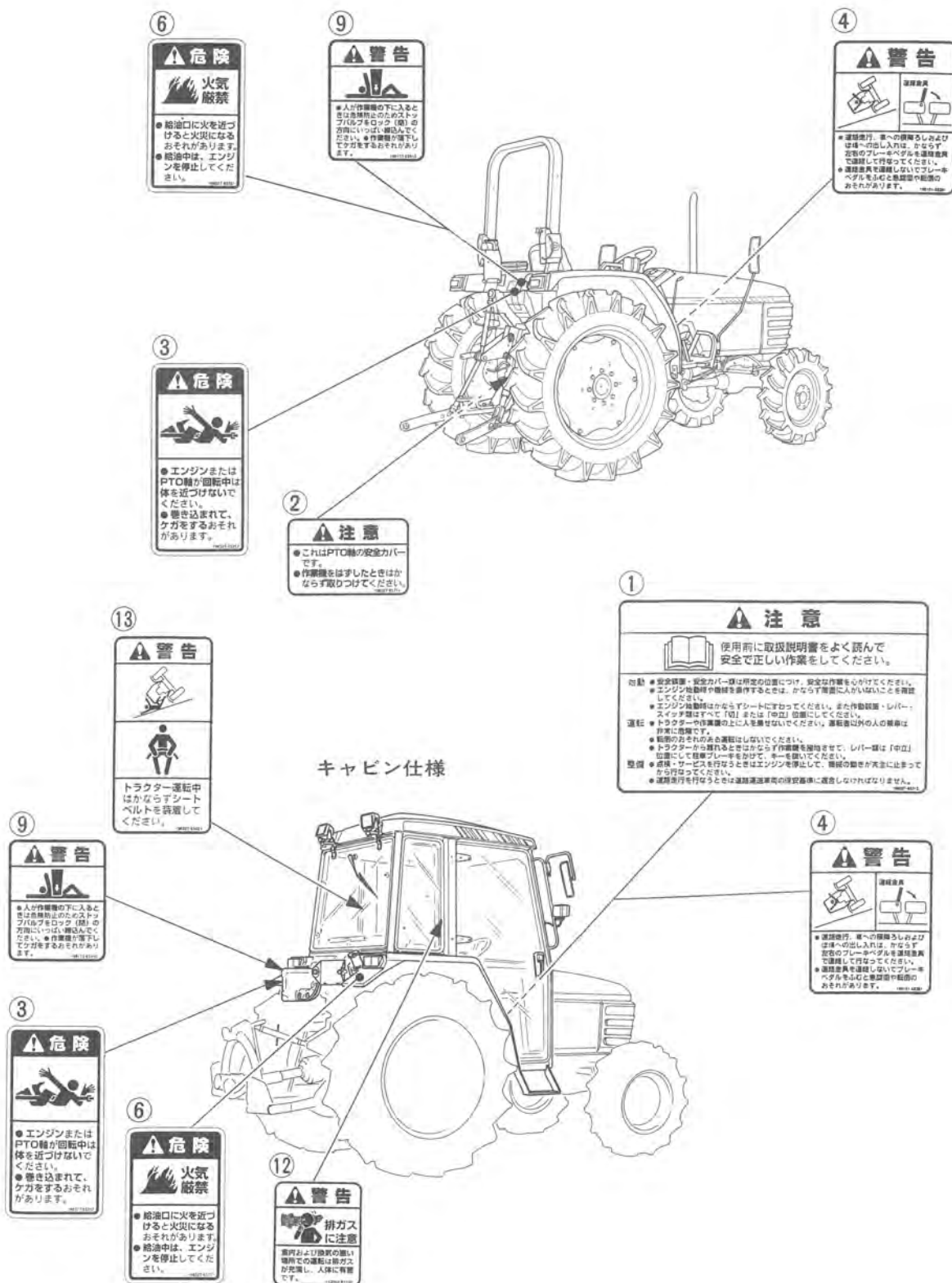
安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	9030 0029 300	注意(安全運転)	⑧	9030 0029 370	警告(クラッチ取扱)
②	9030 0029 310	注意(PTOカバー)	⑨	9030 0029 380	警告(油圧)
③	9030 0029 320	危険(回転軸危険)	⑩	9030 0029 390	注意(マフラー)
④	9030 0029 330	警告(ブレーキペダル)	⑪	9030 0029 400	危険(ラジエタ)
⑤	9030 0029 340	警告(シートベルト)	⑫	9030 0029 410	警告(排気ガス)
⑥	9030 0029 350	危険(火災)	⑬	9030 0029 420	警告(シートベルト)
⑦	9030 0029 360	警告(フレーム)			



各部のはたらき —なまえとはたらきをよく覚えてください。

エンジンコントロール関係

メインスイッチ

⚠ 危険

- トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。



エンジンの始動に使用します。

- 「OFF」 エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)
- 「ON」 各電装品スイッチに電流が流れます。
エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。
- 「START」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。

アクセルレバー



エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

フートアクセルペダル



エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

走行・PTO 関係

主変速レバー



標準仕様は前進3段・後進1段、シャトル仕様は前進3段・後進3段の変速ができます。クラッチペダルを1段踏み込んで変速してください。

シャトルレバー(シャトル仕様のみ)



「前進」「後進」の切り替えに使用します。クラッチペダルをいっばいに踏み込んで操作してください。

【取扱いの注意】

- 「中立」位置ではレバーが自動的にロックされます。レバーを持ち上げてから操作

してください。「N」(中立)位置ではレバー根元のパイロットランプが点灯します。

【取扱いの注意】

- 「前身」「後進」のシフト操作は、いったん「中立」位置にして、機体が停止してから操作してください。

副変速レバー



3段階に変速でき主変速との組合わせで、前進9段・後進3段(シャトル仕様は後進9段)の変速ができます。

クラッチペダルを1段踏み込んで変速してください。

2速・3速はレバーを押し下げながら変速を行います。

【取扱いの注意】

- 超低速「入」で副変速は3速には入りません。

クリープレバー



超低速（クリープ速度）の入・切に使用します。クラッチペダルを1段踏み込んで変速してください。

※副変速が3速に入っているときには、超低速を「入」位置にすると、副変速は中立状態に戻ります。

PTO 変速レバー

⚠ 注意

- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。



PTO 軸（動力取出軸）の回転数を3段階に変速できます。

クラッチペダルをいっぱい踏み込んで変速してください。

ブレーキペダル

⚠ 警告

- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎし、急旋回や転倒するおそれがあります。



ブレーキペダルは左右独立しています。ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪の動力がたたれ、ブレーキがかかり、小回りができます。

路上走行時は、必ず連結金具で左右のブレーキペダルを連結して走行します。

駐車ブレーキレバー



＜駐車するとき＞

左右のブレーキペダルを連結金具で連結し、ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、レバーを引き上げると駐車ブレーキがかかります。

＜解除するとき＞

駐車ブレーキレバーを押し下げ、ブレーキペダルを強く踏み込めば解除されます。

クラッチペダル (デュアルクラッチ)



エンジンの動力を断続するのに使用します。1段踏み込むと走行が断たれ、さらに踏み込むとPTOも断たれます。

【取扱いの注意】

- クラッチを切る(踏む)ときはすばやく、継ぐ(足を離す)ときはゆっくり行ってください。必要のないときは、クラッチペダルに足をのせたままにしないでください。クラッチの寿命を低下させます。

デフロックペダル

⚠ 警告

- 旋回時は必ずデフロックを解除して旋回してください。守らないと思うように旋回ができずに、事故をおこすおそれがあります。

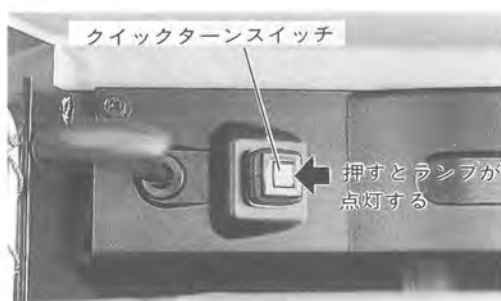


後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップして走行しにくいときに役立ちます。ペダルを踏むとデフロック状態になり、離すと自動的に解除されます。

クイックターンスイッチ (クイックターン仕様)

⚠ 警告

- クイックターンスイッチ「ON」の状態、路上走行や、傾斜地での作業をしないでください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。



クイックターンは、スムーズに小回りができる便利な装置です。

スイッチを押すとランプが点灯し、クイックターンの働く状態になります。もう一度押すとランプが消灯し、働かない状態になります。クイックターンは副変速レバーが「1速」および「2速」のときに働きます。

※スイッチのランプが点灯していても、副変速レバーを「3速」に入れると、ランプは消灯し、クイックターンは働きません。

油圧関係

ジャストマチック仕様は、70ページの「J仕様について」を参照してください。

ポジションコントロールレバー

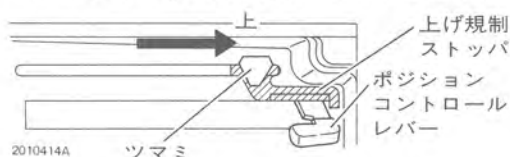


作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。

上げ規制ストップは、ポジションコントロールレバーの操作範囲を制限したいときに使用します。ストップを移動させたいときは、ツマミをゆるめて行います。

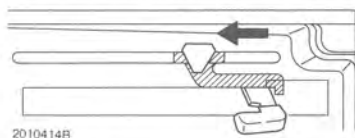
● 上げ規制ストップ格納時

ツマミを一番上の位置にセットします。



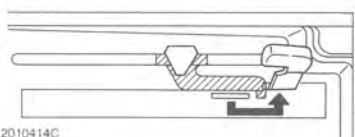
● 上げ規制を行うとき

ツマミを希望の位置へ移動させます。

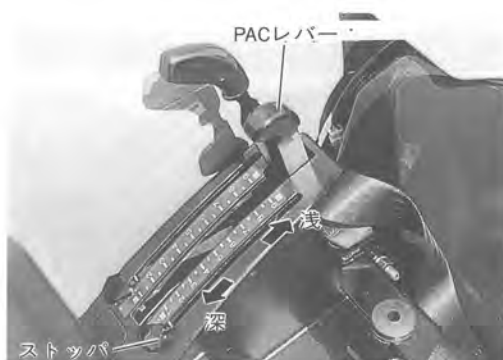


● 作業機の落下防止

レバーを図の位置にセットします。



PACレバー



ロータリ作業およびブラウ作業の耕深調節に使用します。

目盛位置	作業内容
浅	代かき、浅耕
7～4	一般耕うん
4～深	深耕

※目盛の数字は、深さを合わせるための目安です。同じ目盛でもほ場条件により、深さが変わります。

油圧ストップ・フローコントロールバルブ



作業機の下降速度を調節するのに使用します（フローコントロール機能）。

また、「右」方向へいっばい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

各部のはたらき——なまえとはたらきをよく覚えてください。

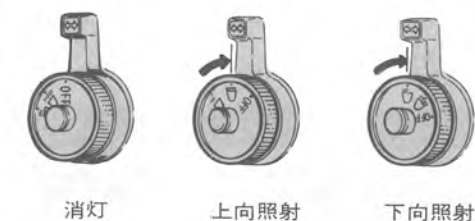
電装関係

フラッシュスイッチ



メインスイッチを「ON」位置にしてフラッシュスイッチを左に回すと左側、右に回すと右側のフラッシュランプが点灯します。

ライトスイッチ



1013904B

メインスイッチを「ON」位置にして、ライトスイッチを右に回すとライトが点灯します。

ホーンボタン



メインスイッチを「ON」位置にしてホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

計器盤



①燃料計



1016401C

赤色区域

燃料の残量を指針で知らせます。針が赤色区域を示した場合は、早めに燃料を補給してください。

②水温計



1016401B

赤色区域

運転中の冷却水温を指針で示します。針が赤色区域位置を示した場合は、作業を中断して点検してください。

③サーモスタートパイロットランプ



1014107C

メインスイッチを「ON」の位置にすると、点灯してヒーターに通電したことを示します。ランプが消えてから「START」位置に回しエンジンを始動します。

④駐車ブレーキパイロットランプ



10139120

ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキレバーを引上げると、ランプが点灯します。駐車ブレーキレバーのみを上げた場合は、ランプが点滅します。この状態では走行しないでください。必ず駐車ブレーキレバーを押し下げた後、走行してください。

⑤エンジン油圧パイロットランプ



10139120

メインスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

⑥チャージパイロットランプ



10139120

メインスイッチ「ON」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するとき、1500rpm以上にしてください。

⑦アワメータ



1016401D

トラクターの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。

その他

ドライバーシート調節レバー



ドライバーシートの前後位置の調節に使用します。運転者の体格に合わせて調節してください。

シート硬さ調節ボルト



運転者の体重に合わせて、シートバネの強さ調節が行えます。右に回すと硬くなります。

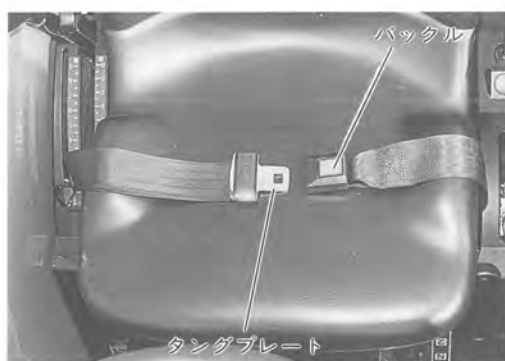
シートベルト

⚠ 警告

- 安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、安全フレームの役目をしません。

- トラクターを運転するときには、かならず安全フレームを立てた上で、シートベルトを着用してください。

守らないと、転落・転倒事故のとき、死亡または重傷のおそれがあります。



シートベルトは、運転する前に必ず装着してください。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで差し込みます。

外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。

1. 作業前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、かならず点検してください。
守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行ってください。

①前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

②トラクターのまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…103ページ



2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- タイヤのリムおよびディスクのボルトのゆるみ…103ページ

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…89・97ページ



1016403B

③ボンネットを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…89～90ページ



1016402A

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…89・97ページ



1016402B

- バッテリー液の量…96ページ



2010570

- エアクリーナーの汚れ…95ページ



1016404A

- 冷却ファンベルトの張り
と損傷…101ページ



2010572

- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…95ページ



1016403A

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…97ページ



2010562

④ ロータリー側へ回ってみて

- ドライブシャフトロックピンのPTO 軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態
- 爪取付ボルトのゆるみ
- ロータリーギヤボックスのオイル量
- ロータケースのオイル量

⑤ 運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…99ページ



2010564

- ハンドルの遊び量…101ページ



2010565

- クラッチペダルの作動具合と遊び量…100ページ



2010564

⑥ エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



1016402D

- 排気ガスの色…104ページ



2010557

- ランプ・メータ類の作動…36・37ページ



2010558

2. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。

トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。

- ① 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- ② 必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
- ③ 運転はエンジンが十分に暖まってから行ってください。
- ④ 悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
- ⑤ 使い始めて最初の50時間目には、88ページの「定期点検一覧表」に従い各部の点検、オイルの交換などをしてください。

3. エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

- エンジン始動時は、かならず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械を使う前と後には、かならず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。

始動のしかた

⚠ 注意

- ポジションコントロールレバーが「下げ」位置でない場合はエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上がって、傷害事故をおこすおそれがあります。

- ①ボンネットを開け、エンジンサイドカバーを開けます。(84・85ページ参照)
- ②燃料コシ器とウォーターセパレータのコックを「O」位置(開の状態)にします。



- ③主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバー(シャトル仕様)とPTO変速レバーを「N」位置にします。
- ④ポジションコントロールレバーを「下げ」(深)にします。



1016404C

- ⑤アクセルレバーを「最高回転」位置にします。
- ⑥メインスイッチを「ON」位置にし、サーモスタートランプの点灯を確認します。
- ⑦サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱい踏み込んで、メインスイッチを「START」(スタート)位置にします。
- ⑧エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。



1016407B

※エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。

※安全のため、主変速およびPTOレバーが「N」位置にないとセルモータが回りませんので、エンジンの始動ができません。

⑧アクセルレバーでエンジン回転を1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。



【取扱いの注意】

- セルモータは大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。

(10秒以内に始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑥～⑦の操作を繰返してください。)

- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。

停止のしかた

- ①アクセルレバーを「低速回転」位置にします。
- ②メインスイッチを「OFF」位置にするとエンジンが停止します。



1016403C

4. 作業機を上下させるには

ポジションコントロールレバーを前後に操作して、作業機を上下させてください。



【取扱いの注意】

- ロータリ作業やブラウ作業以外のときは、PACレバーをいっぱい前方位置(深)にしてください。

5. 作業機の降下速度の調節のしかた

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込みだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・フローコントロールバルブを「左」方向へ回すと速く降り、逆に「右」方向へ回すと作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向へいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- 油圧ストップ・フローコントロールバルブを閉じたまま、ポジションコントロールレバーを操作しないでください。油圧部品の破損につながります。

6. 発進・停止・駐車のしかた

⚠ 警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、シャトルレバーと副変速レバーを「中立」位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。
- 守らないと、事故をおこすおそれがあります。

【取扱いの注意】

- 副変速レバー、クリープレバー、シャトルレバーは、必ず機体が停止してから操作してください。

発進のしかた

- ① ブレーキペダルが、連結金具で左右連結されていることを確認します。
- ② アクセルレバーでエンジン回転を約 1500 回転ぐらいにします。
- ③ ポジションコントロールレバーを「上昇」方向へ操作して、作業機を最上昇位置にします。
- ④ クラッチペダルを踏み込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は 50・51 ページを参照してください。
- ⑤ シャトルレバーを(シャトル仕様)「F」位置または「R」位置に入れます。



20104100

- ⑥ クラッチペダルをゆっくり離すと、トラクターが動きはじめます。

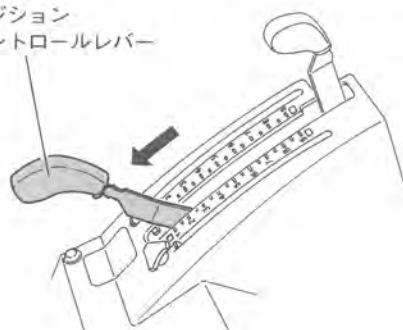
停止・駐車のかた

- ① アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。
- ② クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止します。
- ③ 主変速レバー・シヤトルレバー（シヤトル仕様）およびPTO変速レバーを「N」位置にします。
- ④ 左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、ブレーキを踏み込み、駐車ブレーキをかけます。
- ⑤ 作業機を取り付けている場合は、作業機を地面に降ろしてください。（ポジションコントロールレバー「下げ」にします。）



20104100

ポジション
コントロールレバー



- ⑥ メインスイッチを「OFF」位置にして、エンジンを停止します。

7. 道路走行のかた

警告

- 路上走行時やあぜ越え時にはかならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。
- 公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

注意

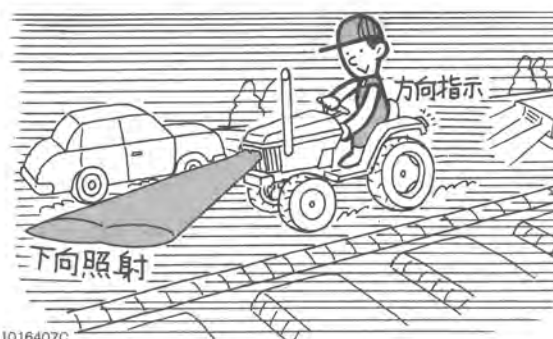
- 公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取外してください。守らないと、道路交通法違反で、事故をおこすおそれがあります。
- PTO 変速レバーを「N」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 道路走行時または、油圧を上げ位置でロックしたい場合、上げ規制ストッパを図の位置にセットし、ポジションコントロールレバーをストッパの上に移動させてください。作業機の落下防止になります。また、落下防止を確実にするため、シート下のスローリターンバルブを締めてください。



- 走行スピードはフットアクセルペダルで調節してください。
 - 進路変更するときは、フラッシュスイッチによって進行方向を他の車に知らせなければなりません。
 - バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
 - 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。
 - クイックターンスイッチを「切」位置（ランプが消灯している状態）にし、クイックターンが働かない状態で走行してください。
- ※ランプが点灯しているときは、スイッチを押すと消灯します。
- 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。

【取扱いの注意】

- 油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、ストッパーをセットして走行してください。



8. 坂道での運転のしかた

⚠ 警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の上では、変速をしないでください。
- 坂道ではシャトルレバー・主変速レバー・副変速レバーを「中立」位置にしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
- 坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
- 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。
- 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。

- 変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックしてください。



9. パワーステアリングについて

⚠注意

- エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなります。

【取扱いの注意】

- ハンドルをいっぱいに切ると、「シュー」という音がします。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。油圧部品の寿命が短くなります。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外は操作しないでください。

10. ほ場への出入りのしかた

⚠警告

- かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎし、転倒するおそれがあります。
- ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行ってください。

ほ場への出入りは、ほ場に対して直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの前後輪が完全にあぜに上がってから作業機を上げてください。



11. 作業に適した速度の 選びかた

主変速レバー・副変速レバー・クリープレバー・シャトルレバー(シャトル仕様)の組合わせにより、前進15段・後進5段(シャトル仕様は15段)の変速ができます。次表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



【取扱いの注意】

クリープ速度は使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。次のことに注意して使用してください。

(1)使用できる作業

- ロータリーでの深耕、細土耕うん作業
- ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき
- プランタによる移植作業
- 農業用トレンチャによる作業
- トラックへの積降し

(2)使用できない作業(故障の原因となります)

- 湿田での脱出時
- 重けん引作業
- フロントローダ作業
- フロントブレード作業
- 土木作業

変速位置		M T 400 N	M T 400	M T 460 N	M T 460
前 進	クリープ切	1速	1.57	1.57	1.63
		2速	2.18	2.18	2.27
		3速	3.18	3.18	3.32
		4速	5.29	5.29	5.50
		5速	7.35	7.35	7.65
		6速	10.75	10.75	11.79
		7速	13.66	13.66	14.22
		8速	19.00	19.00	19.78
		9速	27.77	27.77	28.89
	クリープ入	C1	0.23	0.23	0.24
		C2	0.32	0.32	0.33
		C3	0.46	0.46	0.48
		C4	0.77	0.77	0.80
		C5	1.06	1.06	1.11
		C6	1.57	1.57	1.63
後 進	クリープ切	1速	1.80	1.61	1.87
		2速	6.09	2.25	6.34
		3速	15.75	3.29	16.39
		4速		5.45	
		5速		7.58	
		6速		11.08	
		7速		14.09	
		8速		19.60	
		9速		28.63	
	クリープ入	RC1	0.27	0.23	0.28
		RC2	0.88	0.33	0.34
		RC3		0.48	0.50
		RC4		0.77	0.82
		RC5		1.10	1.15
		RC6		1.61	1.68

(3)発進・停止時について

クリープ速度では車軸の回転が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。また、故障の原因となりますので、必ず次のことを守ってください。

- 発進は駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
- 停止はクラッチペダルを踏んでクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

12. ほ場での旋回のしかた

⚠ 警告

- かならず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります

※デフロックについては、54ページの「デフロックの使いかた」を参照してください。

ほ場での旋回は、左右のブレーキペダル連結金具を外し、ハンドルを切ると同時に旋回方向のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。

作業機を上げて旋回してください。



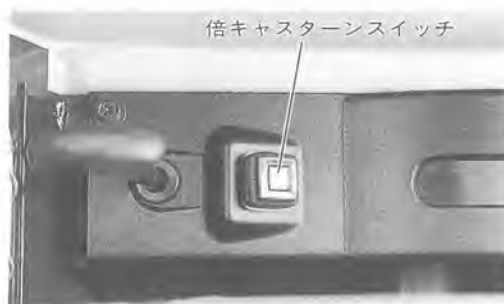
1016406B

クイックターンの使いかた

クイックターンは畑、水田などのロータリ作業には役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や、故障の原因にもなります。次の点に、特に注意してください。

⚠ 警告

- クイックターンスイッチ「入」の状態で行上走行や、傾斜地作業はしないでください。
 - ほ場から出る前には必ず、クイックターンスイッチを「切」にしてください。
- 守らないと転倒などの事故をおこすおそれがあります。



クイックターンを使うとスムーズに小回りができ、「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」などの特長を生かします。

＜使いかた＞

副変速レバー「1速」「2速」で、前輪駆動レバーが「入」のとき、クイックターンスイッチを押すとランプが点灯し、クイックターンが働きます。

クイックターンスイッチをもう一度押すとランプが消灯に、クイックターンは働かない状態になります。

【取扱いの注意】

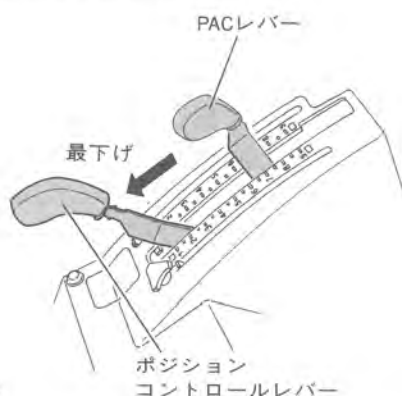
次のような場合は、安全のためクイックターンは働きません。

- クイックターンスイッチ「入」の状態で、副変速レバーを「3速」に入れるとクイックターンスイッチのランプが消灯します。
- クイックターンスイッチ「入」の状態で、4輪駆動レバーを「切」にすると、クイックターンスイッチのランプは消灯します。
- 副変速「3速」の状態で、クイックターンスイッチを押してもランプは消灯せず、クイックターンは働きません。
- フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。

13. ロータリ耕での耕深設定のしかた (PACの使い方)

PACは、凸凹の多いほ場でも耕深が一定になる機能です。一般耕うん、代かき、代かきハロー作業などに効果を発揮します。次の要領で耕深を設定してください。

- ①PACレバーで、下表を参考にして耕深を設定してください。



2010413C

目盛位置	作業内容
浅～7	代かき、浅耕
7～4	一般耕うん
4～深	深耕

【取扱いの注意】

- 目盛の数字は、深さを合わせるための目安です。同じ目盛でもほ場条件や、ロータリーカバー回動位置により深さが変わります。
- ②ポジションコントロールレバーで作業機を降ろし、耕うんを始めます。作業機の上下はポジションコントロールレバーで行います。

- ③耕うんはポジションコントロールレバーを「最下げ」位置にして行います。

※実際の耕深を見て、希望の耕深でないときは、PACレバーで耕深を調節してください。



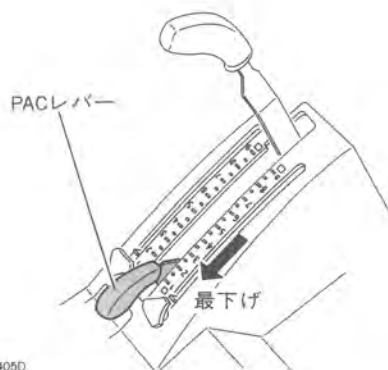
【取扱いの注意】

- PACが使用できるのは、PAC対応機構の付いている作業機だけです。

14. PAC以外の耕うん作業・ロータリ以外の作業機を使う場合の位置設定のしかた (ポジションコントロールの使いかた)

作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。ロータリ以外の一般作業機での作業に使用します。また、尾輪作業時にも使用します。特にワラ、草が多い場合の耕うん作業位置の設定は次の要領で行ってください。

- ①PACレバーを「深」位置にします。



- ②作業機の上下は、ポジションコントロールレバーで行います。



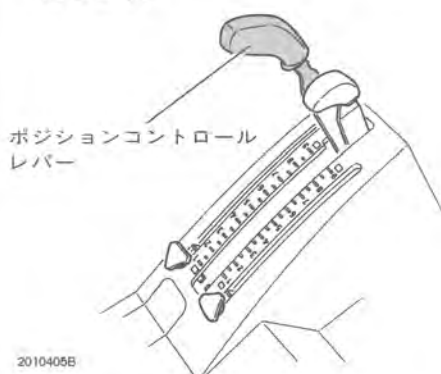
- ③作業機の下限位置を設定したいときは、希望する位置でポジションコントロールレバーが止まるように上げ規制ストッパで固定します。

15. ミックスコントロールの 使いかた

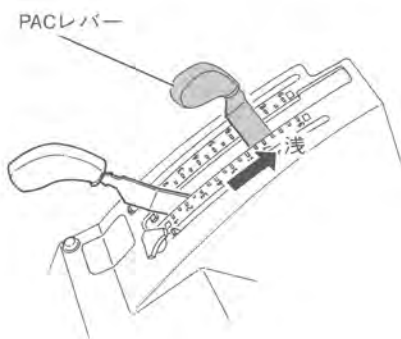
〔PACとポジションコントロールを
併用して使用する〕

ミックスコントロールとは、PACとポジションコントロールを併用して使用するもので、下げ側のみを規制する機能です。湿田耕うん、凸凹の多い代かき作業などに効果的です。作業位置の設定は次の要領で行ってください。

- ①作業を行いながらポジションコントロールの設定要領で、希望する作業深さに設定します。



- ②PACレバーを徐々に「浅」の方向に動かし、ロータリが作業する位置に設定します。



16. デフロックの使いかた

⚠ 警告

- かならず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。

守らないと走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



【取扱いの注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げってから行ってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

17. トラックへの積み込み・積降ろしのしかた

⚠ 危険

- トラックへの積み込み・積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えたり停止するために、クラッチの操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- トラックへの積み込み・積降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください
- トラックへの積み込みは後進で行ってください。積降ろしは前進で行ってください。
- トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

- ①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
- ②ブレーキペダルは必ず連結してください。
- ③変速は低速位置で、必ず後進で積込んでください。
- ④途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



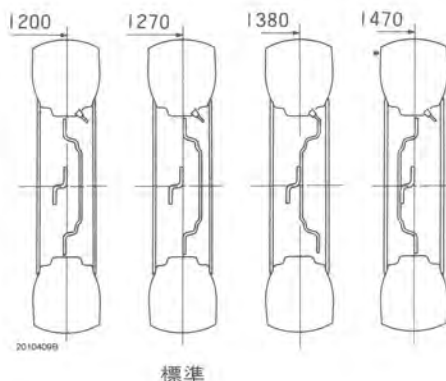
18. 前輪・後輪車輪幅（輪距）について

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節できます。また、傾斜地作業やげん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

※車輪幅の調節については、販売店にご相談ください。

前輪

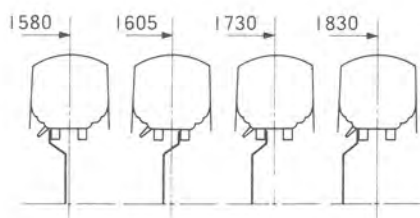
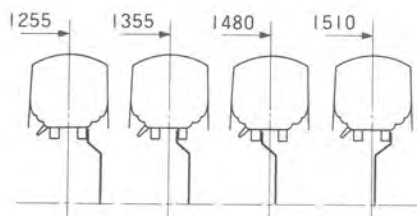
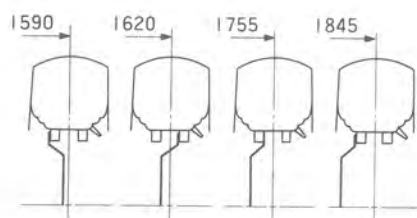
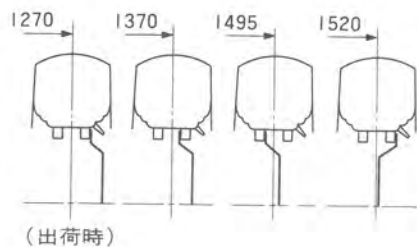
8-18 (R仕様のみ)



締付トルクについて

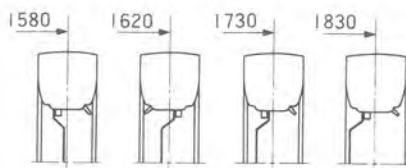
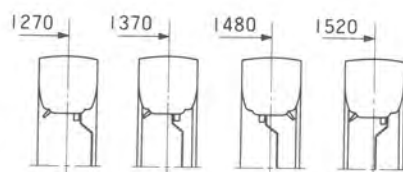
リムとディスクの取付ボルト	17 kgf・m
ホイールとアクスルシャフトの取付ボルト	19 kgf・m

MT-400 後輪:12.4-28



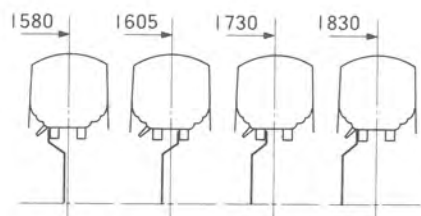
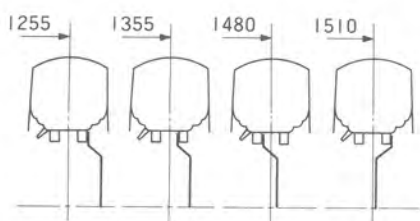
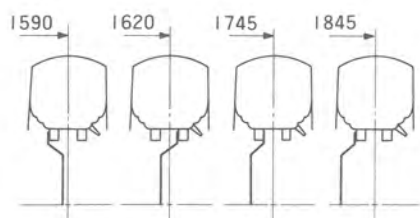
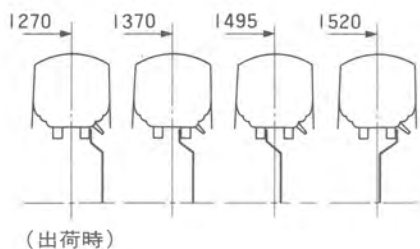
2010408A

MT-400 後輪:13.6-26



2010408B

MT-460 後輪:13.6-28



運転と作業のしかた — 安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

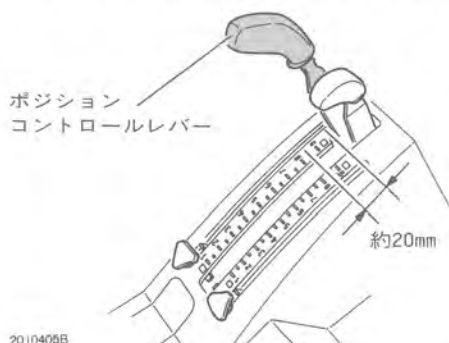
19. 油圧外部の取出しかた

⚠ 注意

- 油圧取出口のプラグを外したり、配管の取付け、取外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

単動シリンダ…ダンプトレーラなど

- ① ポジションコントロールレバーを最上位置より約20 mm下げ側にセットします。

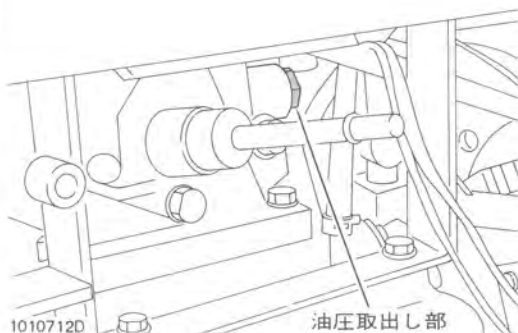


- ② 油圧ストップ・フローコントロールバルブを、「閉」方向いっぱいに締め込みます。



- ③ 前部カバーを外して油圧取出し部のプラグを外し、作業機側の高圧ホースを配管してください。

※ 取り出した銅パッキン、プラグは大切に保管してください。

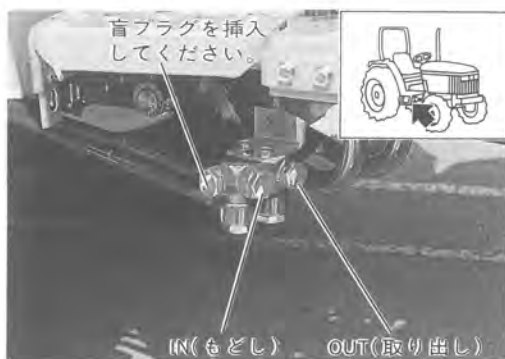


複動油圧取出口…フロントローダなど

- ① トラクターの右ステップ下部前側にある外部油圧取出口を、作業機のパルプと配管してください。

内側…OUT (取り出し)

外側…IN (戻し)

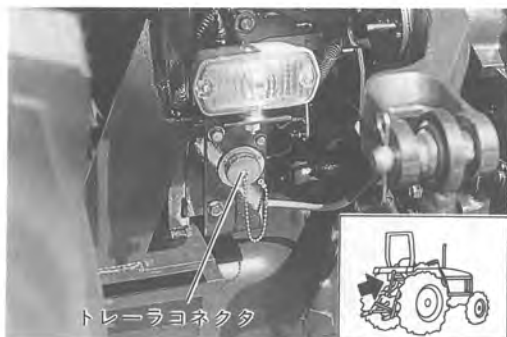


※ 油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機取扱説明書を参照してください。

20. トレーラコネクタの接続のしかた

トレーラをけん引するときには、本機とトレーラ側の電装を接続してください。

本機コネクタに付いているキャップを外し、トレーラ側のコネクタと接続します。



【取扱いの注意】

- トレーラをけん引しないときは、必ずキャップをしてください。

21. 外部電源・充電コンセントについて

作業機への外部電源取り出しや、バッテリーの充電に使用します。充電の場合は、充電器の出力側を差し込みます。



【取扱いの注意】

- このコンセントに100Vの家庭用電流(交流)、および24Vのバッテリー電源を直接差し込まないでください。バッテリーが破損します。
- コンセントのプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと(最大: 12V 15A)ヒューズが切れます。ヒューズの交換は、ヒューズボックス内で行います。

22. 3点リンクの取り付けかた

- ① ロアリンクヒンジにロアリンクを取り付け、ロックピンで固定します。

※ ロアリンクの左右は共通ですが、前後があります。チェックチェン取付部が後ろにくるように取り付けてください。



- ② チェックチェンを、チェックチェンブラケットとチェックチェン取付穴(一番後ろの穴)に固定します。

※ ロアリンク側の他の穴は、リフトリンクを取り付ける穴です。



運転と作業のしかた ― 安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

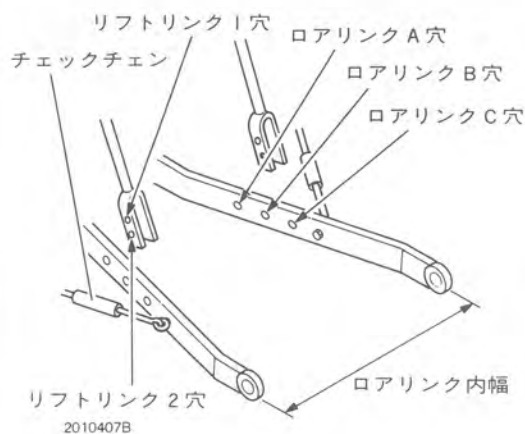
- ③リフトリンクをリフトアームとロアリンクに連結します。



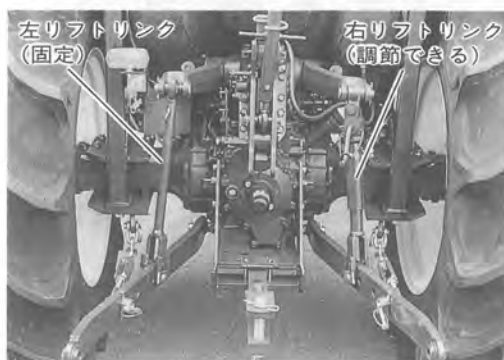
取付位置について

作業機例	ロアリンク穴位置	リフトリンク穴位置
一般作業機	A	2
特殊作業機	A	1
スーパーヒッチ前穴	B	2
スーパーヒッチ後穴	B	1
ロータリ直装 後穴	C	2
ロータリ直装 前穴	C	2
スーパーヒッチ前穴 (揚力アップ穴)	C	2
スーパーヒッチ後穴 (揚力アップ穴)	C	1

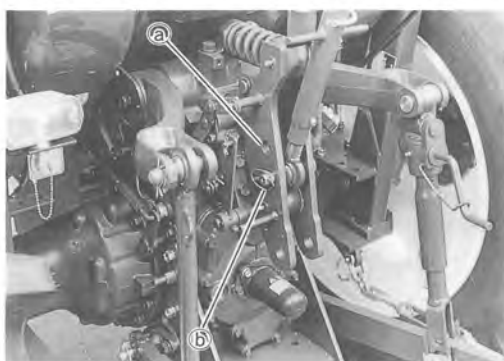
※ロータリの取扱説明書を参照してください。



- ※リフトリンクには左右があり、調節できる方を右側に、固定式を左側に取り付けてください。



- ④標準のトップリンクをトップリンクヒンジの穴に取り付けます。
(作業機により a・bに取り付けてください)



23. トップリンクの調節のしかた

トップリンクのロックナットをゆるめ、ターンバックルを回すとトップリンクの長さが調節できます。作業機を装着しないときは、フックに引っ掛けておいてください。

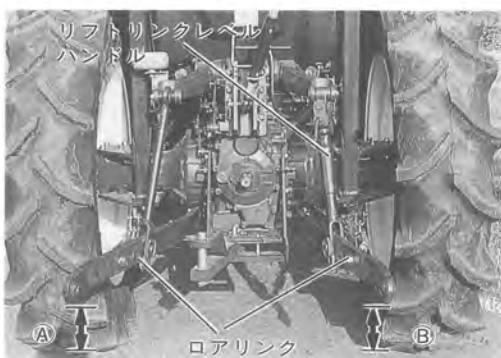


〈スーパーヒッチを使用する場合〉

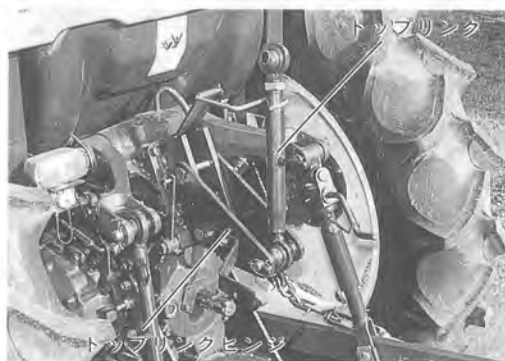
取付穴位置が異なります。ロータリーの取扱説明書を参考にしてください。

24. 一般作業機を取り付けかた

- ①右側のリフトリンクレベルハンドルを回して、左右のロアリンクの高さを、同じにしてください。(A=B)



- ②平坦なところで、作業機の中心にほぼトラクターの中心を合わせて止めます。
- ③左側ロアリンクを先に作業機に取り付け、次に右側のロアリンクを取り付けます。
- ※右側のロアリンクのピン穴と作業機が合わないときは、リフトリンクレベルハンドルを回して調節して取り付けます。
- ④標準のトップリンクを、トップリンクヒンジにボールソケットロックピンで固定します。
- ⑤トップリンクのロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して長さを調節し、作業機のトップリンク取付部にピンで固定します。



- ⑥作業機をいったん油圧で持ち上げ、作業機の中心とトラクターの中心が合うようにチェックチェンターンバックルで調節します。作業機が中心位置で左右に10 mm程度ゆれる位に余裕を残して固定します。

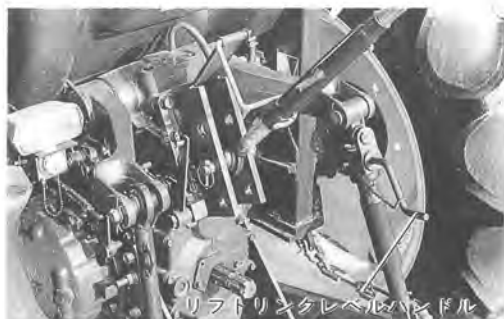


- ⑦作業機を地面まで降ろして、トップリンクのターンバックルで作業機の姿勢を調整します。

- ⑧動力を必要とする作業機を取付けるときは、ドライブシャフトの安全カバーの銘板の指示に従って取り付けてください。

- ⑨作業機を少し上げて左右水平になっているかどうか後方から確かめます。

※水平でなければリフトリンクレベルハンドルで調節します。



- ⑩作業機を最高の位置まで上げ、作業機が円滑に回るかどうか、手で回してみ、もし回転が円滑でなかったら、トップリンクを伸縮して調節してください。

※取り外しは、取り付けの逆の手順で行ってください。

25. 作業機の取り扱いについての注意事項

警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
 - 作業機を着脱は、平坦で安定した場所で行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
 - 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
 - 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO 変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。
 - けん引作業をするときは、かならずけん引ヒッチを使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
 - けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
 - 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
 - バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
 - フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーをかならず取付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

26. 超低速（クリープ速度）運転のしかた

クリープレバーを「入」位置に入れて、作業に合わせて主変速レバー・副変速レバーを希望の位置に入れてください。

※クリープレバー「入」位置のとき、副変速レバーの操作が重くなることがあります。このときは、いったん主変速レバーを「N」位置にすると、軽く変速できます。



※超低速時でのブレーキは、必ずクラッチペダルを踏んでから、ブレーキペダルを踏んでください。車軸の回転力が大変強いので、クラッチを踏まないとブレーキがききません。

使用する作業

- ロータリーでの深耕・細土耕うん作業。
- ロータリー耕起でほ場が硬く、標準速度で作業できない場合。
- 深耕ロータリー作業。
- 農作業用トレンチャによる作業。

使用してはいけない作業

- 湿田での沈没状態からの脱出。
- けん引・トレーラ作業。
- フロントブレード作業。(除雪作業)
- 土木作業。
- ほ場への出入り。
- 車への積み降ろし

【取扱いの注意】

- 超低速（クリープ）は、使い方を誤ると、故障の原因になります。十分注意して取り扱ってください。

27. PTO 変速レバーの操作のしかた

⚠ 注意

- PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーをかならず取付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

PTO の回転速度は3段階に変速できます。変速操作は、PTO クラッチをいっぱい踏み込んでから行ってください。なお、路上走行時など PTO を使用しない場合は、PTO 変速レバーを「N」位置にしておいてください。



PTO 変速レバー

PTO 回転数

PTO 変速	回転速度 (rpm)
1	614
2	806
3	1151

28. スイングドローバの使いかた

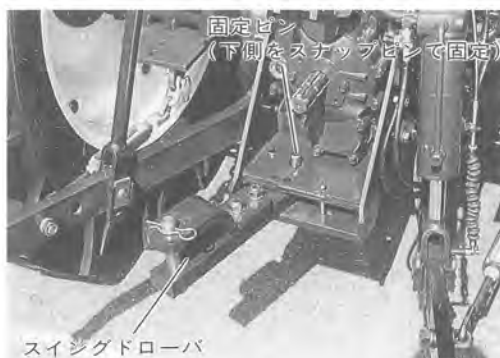
⚠ 危険

- けん引作業は、必ずドローバを使用してください。トップリンクやリヤアクスルなどでのけん引は、転倒の危険性がありますので絶対しないでください。

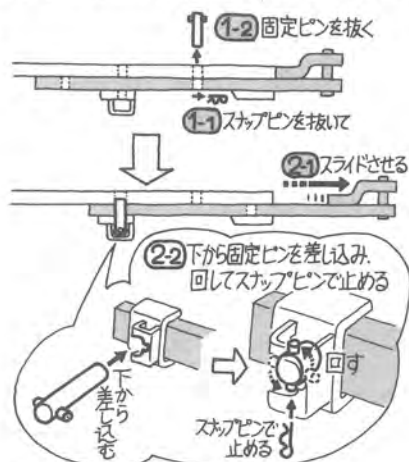
スイングドローバは、前後に2段階と左右に調節ができます。(左側は前後2段・中央1段・右側1段)

＜前後の調節＞

- ① ブラケットのドローバ固定ピンを抜きます。



- ② ドローバを前後にスライドさせ、ピンを差し替えてドローバ固定ピンをセットします。



2010411B

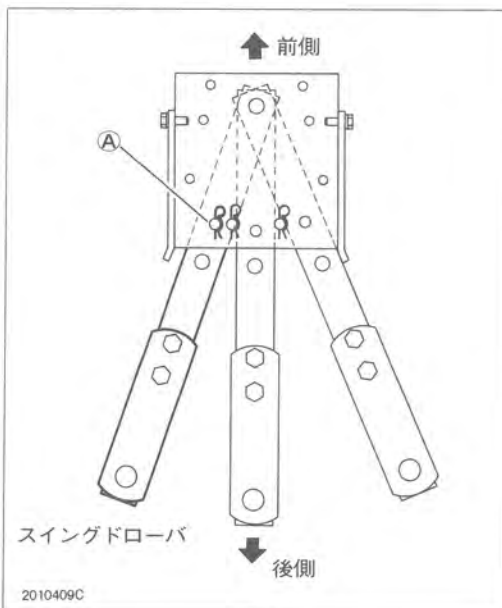
＜左右の調節＞

①振れ止めピンを抜いて調節します。



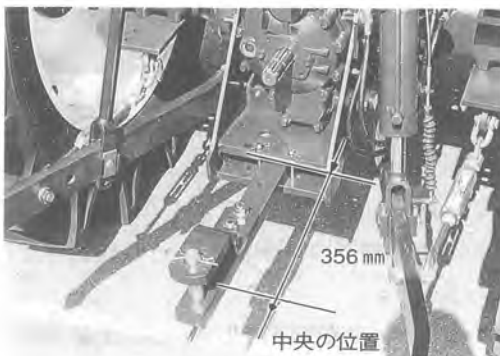
②左側のみ A 位置で振れ止めピンを、スイングドロワーバの穴を通して固定することができます。

※ 3P に作業機を装着して PTO 駆動する作業では、A 位置にスイングドロワーバを固定してください。



PTO 駆動とけん引作業を併用

PTO 駆動とけん引作業を併用する場合は、スイングドロワーバは中央の位置で、長さを PTO 軸端より 356 mm (スイングドロワーバを伸ばした状態) にセットして使用してください。



【取扱いの注意】

- 作業機を装着する前には、作業機取扱説明書を良く読んでください。作業機によっては特殊な操作が必要なものがあります。

ロータリー作業時および格納時

スイングドロワーバを左側の縮めた状態にします。



29. 折りたたみ式安全フレームの使いかた

安全フレームは、万一の事故のとき人身事故を防ぐのに非常に効果があります。

トラクター運転中は、必ず安全フレームを立てて安全運転に心がけてください。

警告

- 安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、安全フレームの役目をしません。
 - トラクターを運転するときには、必ず安全フレームを立ててください。また、必ずシートベルトを着用してください。
 - 作業中は、絶対に安全フレームを折りたたまないでください。
 - 絶対に安全フレームの改造をしないでください。安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
 - トラクターを使用する前に、必ず安全フレームがピンによってロックされているか確認してください。
 - 安全フレームが損傷したときは、安全フレーム一式を交換してください。修理すると安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
- 守らないと、転落、転倒事故のとき、死亡または重傷のおそれがあります。

＜安全フレームの折りたたみかた＞

- ①ノブネジをゆるめます。(3～5mm程度)
- ②支柱は左右2箇所固定しています。左右ともスナップピンを外し、固定ピンを抜きます。
- ③固定ピンを取り付け、スナップピンで固定します。
- ④ノブネジを締め込み、安全フレームがガタつかないようにします。



2010411D

＜安全フレームの立てかた＞

折りたたみかたの逆手順で行ってください。



2010412A

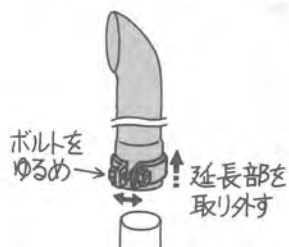
30. マフラー噴出口の角度・ 高さの変えかた（標準仕様）

〈延長部の取り外しかた〉

ボルトをゆるめてマフラー噴出口の先端部を上へ引き抜きます。

〈角度の変えかた〉

- ① ボンネットを開け、左サイドカバーを開けます。（84ページ参照）
- ② ボルトと取付穴の差し替えて、斜め前および水平位置に変えることができます。



ジャストマチック仕様について (J仕様のみ)

1.各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

傾き手動・自動切換スイッチ

- 「傾き自動」で使用する場合
傾き手動・自動切換スイッチを押して「入」(ランプ点灯)にし、傾き設定ダイヤルで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面に対して一定の角度に保つことができます。

※作業機を最上昇位置にすると、作業機はトラクターと平行になり、傾き設定ダイヤルは働きません。

- 「傾き手動」で使用する場合
傾き手動・自動切換スイッチを押して「切」(ランプ消灯)にし、手動レバーで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターに対して一定の角度に保つことができます。設定操作中に、作業機がトラクターに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。

※作業機を最上昇位置にしても設定された角度を保ちます。



傾き設定ダイヤル
71ページを参照してください。

手動レバー

- 「傾き手動」で使用する場合
トラクターに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- 「傾き自動」で使用する場合
手動レバーを動かしている間だけ、作業機の角度が変わります。手を離すと傾き設定ダイヤルで設定された角度に戻ります。

ジャストマチック操作ボックス

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要のある場合は、カバーを開けて調節してください。



傾き設定ダイヤル

「傾き自動」のときに、地面に対する作業機の角度を設定することができます。

※「傾き自動」のときは、作業機を最上昇位置にすると傾き設定ダイヤルが動きません。

微調整スクリュー

「傾き自動」のときに、最上げ時の水平の微調節を行います。

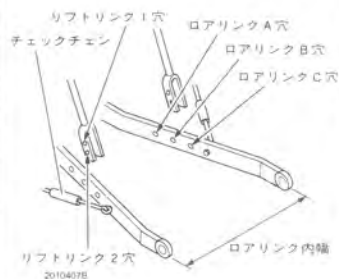
【取扱いの注意】

- 工場出荷時に、水平調整を行ってありますので、特別な場合を除いて触らないでください。

3 P 切換スイッチ

作業機を付け替えたときは、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態（ロアリンクの内幅）に応じて下表より選択し、その位置に3P切換スイッチを切り換えてください。
※作業機の取り付けは、61ページの「3点リンクの取り付けかた」および作業機の取扱説明書に従って行ってください。

3P切換スイッチ	ロアリンク内幅	ロアリンク穴位置	リフトリンク穴位置	作業機例
	718mm	A	2	一般作業機
	718mm	A	1	特殊作業機
	649mm	B	2	スーパーヒッチ前穴
	645mm	B	1	スーパーヒッチ後穴
	612mm	C	2	ロータリ直装 後穴
	600mm	C	2	ロータリ直装 前穴
	649mm	C	2	スーパーヒッチ前穴 (揚力アップ穴)
	649mm	C	1	スーパーヒッチ後穴 (揚力アップ穴)



2. 基本的な使いかた

路上走行のとき

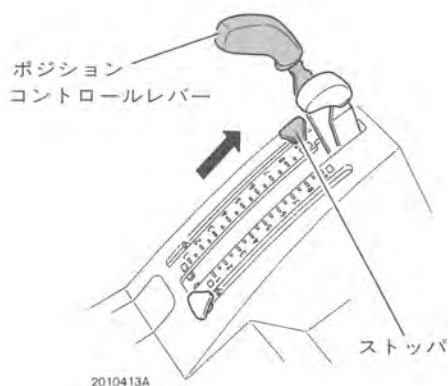
作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行ってください。

- ①傾き手動・自動切換スイッチが点灯している場合は、傾き手動・自動切換スイッチを押して「切」（ランプ消灯・手動）にし、手動レバーで作業機をトラクターと平行にしてください。

傾き手動・自動切換スイッチ



- ②ポジションコントロールレバーを上げ位置にして作業機を上げ、ストッパをセットしてください。

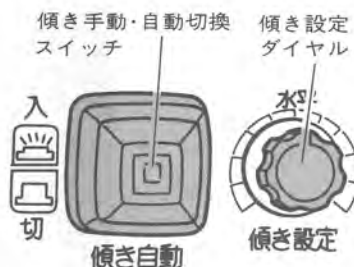


【取扱いの注意】

- 油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、レバーロックをセットして走行してください。守らないと、作業機が下がり、事故をひきおこすおそれがあります。

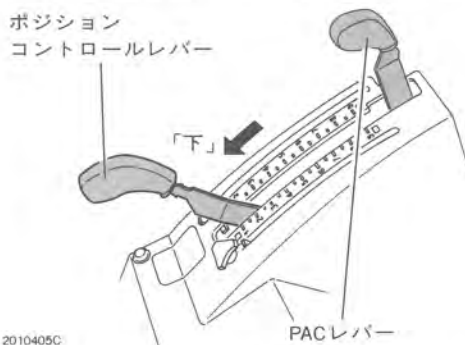
ロータリー作業

傾き手動・自動切換スイッチを「自動」位置にし、傾き設定ダイヤルで作業内容に適した、作業機の角度姿勢を設定してください。



作業機を下げると「自動」運転になり、傾き設定ダイヤルで設定した角度姿勢を保ちます。

※ポジションコントロールレバーは、「最下」位置にしておいてください。



実際の耕深を見て、希望の耕深でないときは、PACレバーで耕深を調節してください。

3. センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、ジャストマチック操作ボックスの傾き手動・自動切換スイッチが点滅します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、販売店までご連絡ください。



4. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合（特に高圧洗車）は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサ類および電装品への直接放水はさけてください。

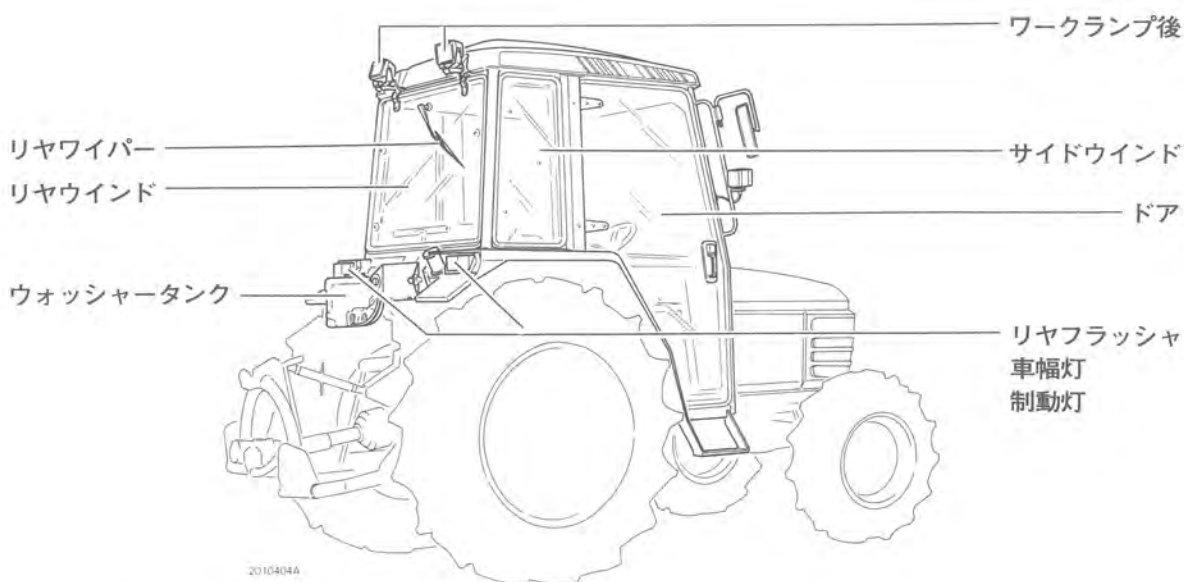


長期間保管の場合は、必ずキースイッチを「OFF」にしてから抜いて保管してください。

キャビン仕様について (X仕様のみ)

1. 各部のなまえ

説明図は、本機MT-460を基準にしています。



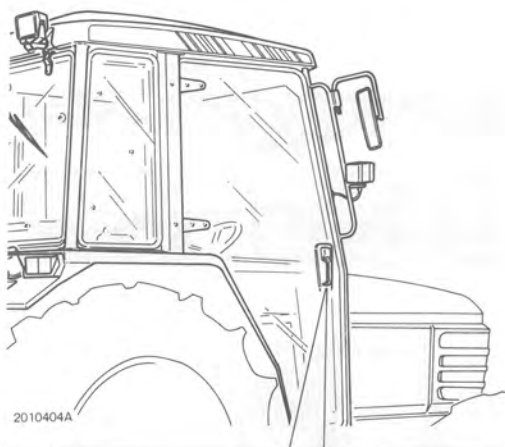
キャビン仕様の装備

1	フロントワイパー	5	エアコン
2	ラジカセ (AM・FM 電子チューナー付)	6	ワークランプ前 (2灯)
3	ワークランプ後 (2灯)	7	ルームランプ
4	リヤワイパー		

2. ドアの開閉のしかた

車外から

左右とも、ドア取手のボタンを押すとロックが解除されて、ドアが開けられます。



車内から

左右とも、ドア開閉レバーを後方に引くと開閉できます。



施錠、解錠のしかた

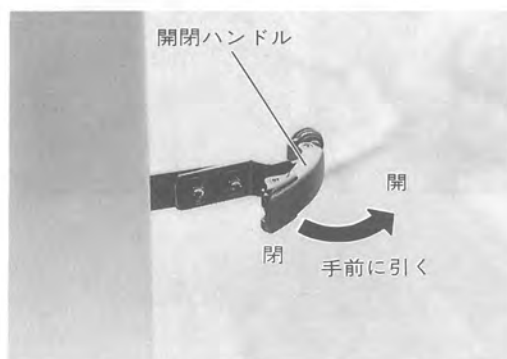
キーを差し込んで90度右へ回すと施錠し、左へ90度回すと解除されます。



3. リヤウインド・サイドウインドの開閉のしかた

サイドウインドの開閉のしかた

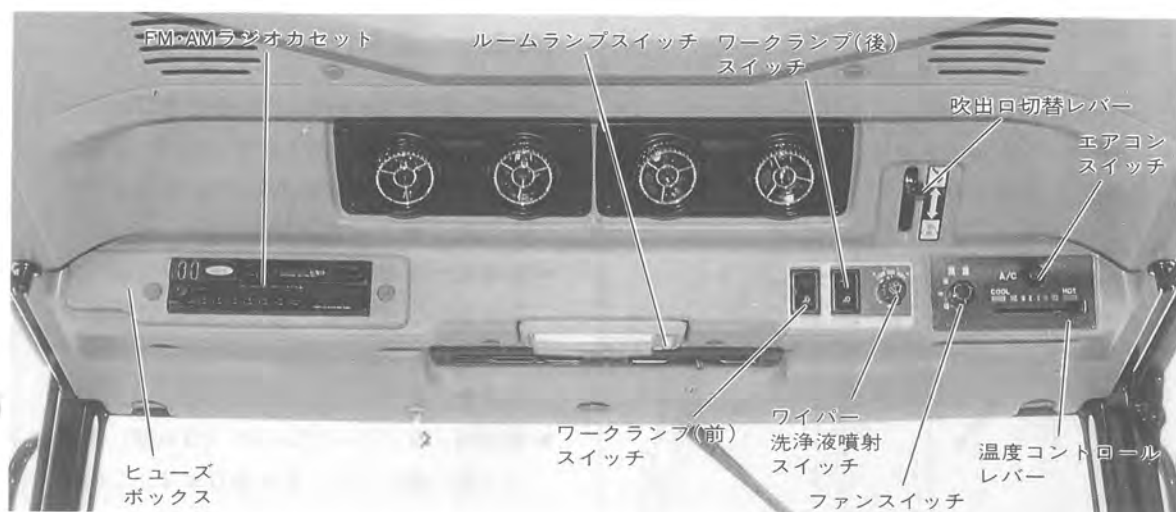
開閉ハンドルを手前に引き、外側へ押して開閉を行います。



リヤウインドの開閉のしかた

リヤウインドストッパーを開方向に回し、リヤウインドを上に押し上げてください。





4. スイッチの使いかた

ワークランプスイッチ (前・後)

⚠ 注意

- 道路走行時は、ワークランプを消灯してください。

守らないと道路交通法違反になり、事故をおこすおそれがあります。

スイッチを「入」方向へ押すと、ワークランプが点灯します。



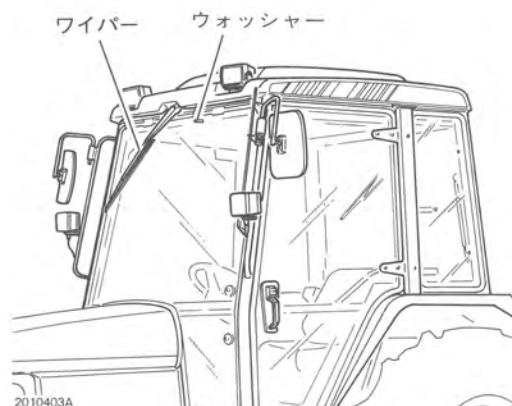
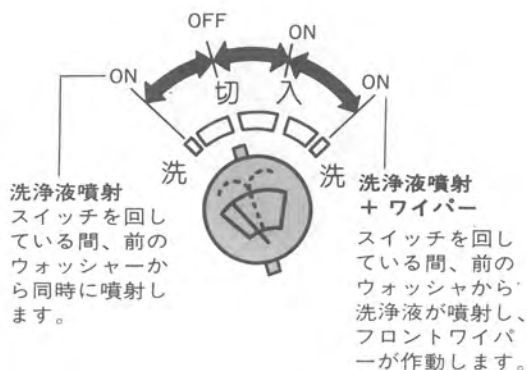
【取扱いの注意】

- エンジン停止状態でワークランプを長時間使用すると、バッテリー容量が低下しエンジンの始動ができなくなります。

ワイパー洗浄液噴射スイッチ

〈フロントワイパー〉

ワイパー作動
フロントワイパーが作動します。

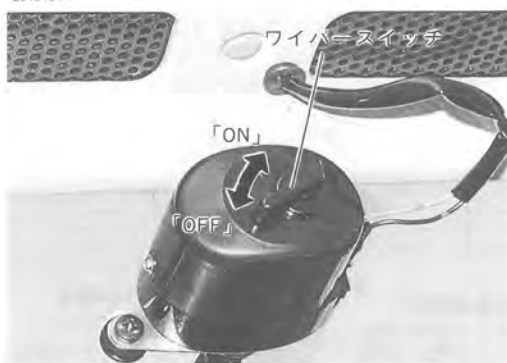
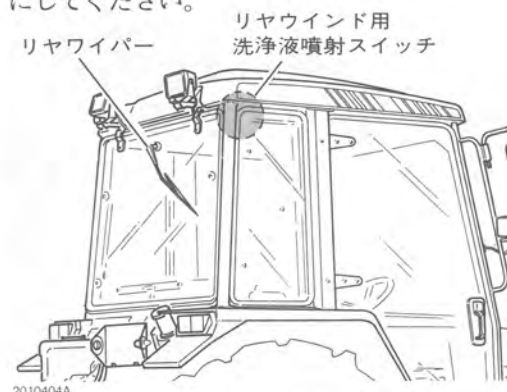


2010403A

〈リヤワイパー (ワイパーのみ)〉

ワイパースイッチを「ON」にすると、ワイパーが作動します。

ワイパーを止めるときは、メインスイッチが「ON」の状態ワイパースイッチを、「OFF」にしてください。



〈リヤウインド用洗浄液噴射スイッチ〉

スイッチを押している間だけ、リヤウインドに洗浄液を噴射します。



【取扱いの注意】

- ウインドガラスが乾いているときワイパーを作動させると、ガラスやワイパーを傷つけます。洗浄液でぬらしてからワイパーを作動させてください。
- 洗浄液が出ないときは、スイッチを切ってください。洗浄液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード (ゴム部) がガラス面に張りつくことがあります。このまま作動させると、ワイパーが破損しますのでヒータで前面ガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態で、ワイパーを長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

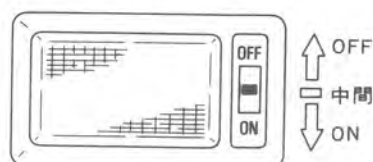
〈ウォッシャータンクについて〉

ウォッシャータンクは、フレーム本体後側 (左側) に取り付けられています。タンク容量は約 1.2ℓ で、水と液の割合は約 1:1 にします。



ルームランプ

ルームランプは、スイッチ「ON」の位置で点灯します。中間位置と「OFF」の位置では消えた状態です。



1015003C

5. ヒューズの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

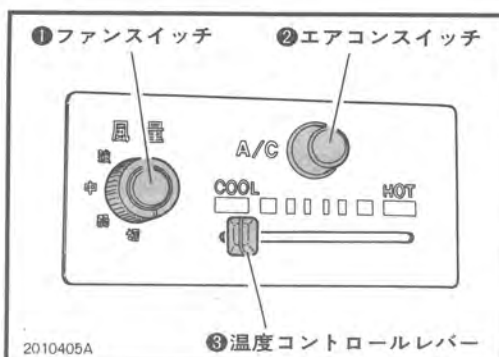


ヒューズボックス

ワイパー	フライング	エアコン	モーター	ヒューズ
10A	10A	15A	20A	
ラジカセ(本体裏)	メイン	バックアップ	3A	
			1A	

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。

6. エアコンの使いかた

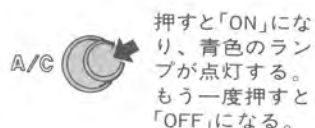


① ファンスイッチ

風量を3段階に調節できます。

「切」位置でファンの回転は停止し、エアコンの電源も「OFF」となります。

② エアコンスイッチ



2010405A

エアコン電源の「ON」「OFF」に使用します。

※「OFF」の状態からスイッチを押すと「ON」となり、青色のランプが点灯します。再び押すと「OFF」になります。

③ 温度コントロールレバー

一番左位置（青）で吹き出し温度が一番低くなり、右側に移動することにより吹き出し温度は上昇します。

※一番右位置から約3目盛の間は、除湿暖房用の温風が吹き出します。(81ページ参照)

連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、農協で点検を受けてください。

7.FM・AM 付ラジオカセットの使いかた

FM・AM 付ラジオカセットの取扱説明書をお読みください。

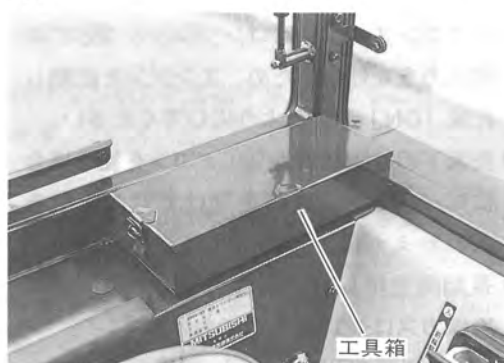
※ラジオを聞くときは、アンテナを伸ばしてください。

※車庫や倉庫など高さの低い場所を通るときは、アンテナを下げてください。

8.その他

工具箱

後部ライセンスブラケットの下部にあります。



灰皿

キャビン左側のサイドウインドの下にあります。



小物入れ

シート背面にあります。



作業後の手入れについて 正しい手入れを —行なってください。

1. 作業後の手入れ

⚠ 危険

- シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリスアップおよび注油を行ってください。

⚠ 注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

【取扱いの注意】

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



● キャビン仕様の洗車の注意

使用後洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。



2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた

ボンネット開閉のしかた

開けかた

- ① ボンネットオープンレバーを押し下げると、ボンネットのロックが解除されます。
- ② 手でボンネットを持ち上げて、ストッパーをフックに掛けて固定します。



閉めかた

- ① ボンネットを閉じる場合は、ボンネットを持ち上げ、ストッパーをフックから外してクリップに固定します。
- ② ボンネットを下ろし、前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押ししてください。

サイドカバーの取り付け・取り外しかた

取り外しかた

- ① ボンネットを開けます。
- ② ロックツマミ（前後2箇所）を起こして水平位置まで回します。
※キャビン仕様のロックツマミは、前1箇所だけです。
- ③ サイドカバーを取り外します。



取り付けかた

- ① カバー下部のフック（2箇所）およびカバー上部後側（キャビン仕様）をクランプさせます。



- ② カバー上部をロックツマミで固定します。
※キャビン仕様のロックツマミは、前1箇所だけです。

フロントグリルの取り付け・取り外しかた

取り外しかた

- ①ボンネットを開けます。
- ②フロントグリル上部のロックツマミ（2箇所）を起こして水平位置まで回します。
- ③フロントグリルを持ち上げながら前方に引き出します。
- ④ヘッドランプ用のカプラー（2箇所）を外し、フロントグリルを取り外します。



取り付けかた

- ①ヘッドランプ用のカプラー（2箇所）を取り付けます。
- ②フロントグリル左右の下部に、前後各2箇所のラッチにはめ込みます。



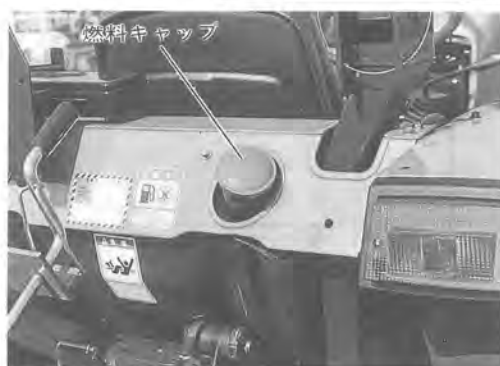
- ③フロントグリル上部のロックツマミ（2箇所）で固定します。

3. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。
守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「ON」位置にして、燃料計が赤色区域を指示したら、燃料キャップを外して給油口より補給してください。



4. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

- 格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 格納する場合は、クラッチペダルをロックしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

- ① 乾燥した風通しの良い所で、ウエイトなどは取り外し、ロータリーも取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



1016407A

- ② 外部の錆やすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- ③ 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「C」（閉の状態）にしてください。

- ④ バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（一侧）を外してください。

- ⑤ 冷却水を抜き取ってください。

- ⑥ エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

- ⑦ クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルのロック金具をかけてください。



2010411C

- ⑧ 前・後輪タイヤとも、正規の空気圧にしてください。（103ページ参照）

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



1016404D

【取扱いの注意】

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。1ヵ月に1度は充電器で完全充電してください。（96ページ参照）

定期の点検・調整について

⚠ 警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは2年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。
守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行い農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

アワメータ表示時間 実 施 項 目	50 時 間 目	100 時 間 目	150 時 間 目	200 時 間 目	250 時 間 目	300 時 間 目	350 時 間 目	400 時 間 目	450 時 間 目	500 時 間 目	550 時 間 目	600 時 間 目	参 照 ペ ー ジ
エンジン潤滑油交換	交換		交換			交換			交換			交換	90
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	90
フロントアクスルオイルの点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	91
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	92
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換	○		○		交換		○		○		交換	92
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												95
ミッション内オイルコシ器洗浄	○					○						○	-
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		洗浄	93
冷却水の点検(交換)	仕業時毎に点検(1年毎に交換)												93
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	95
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	95
バッテリー液量点検	仕業時毎に点検												96
バッテリー液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	96
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	97
パワーステアリングのゴムホースの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換												97
油圧ゴムホースの点検・交換	2年毎に交換												-
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換												97
電気配線の点検 ※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	97
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	98
ステアリング各部締付点検		○		○		○		○		○		○	-
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	-
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	101
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	-
吸排気弁すき間の点検												○	-
燃料噴射弁の点検												○	-
発電機、始動電動機の点検										○			-
油圧装置の点検										○			-

※1 50時間ごとに点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。

※2 交換の必要なものは、使用時間に達しなくても2年ごとに交換してください。

※3 パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。

2. オイル・グリス・不凍液一覧表

燃 料	ディーゼル軽油 JIS2号または特3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル (新SAE、CC級) (JIS K2216 2種) (DG または DM)	純 正 油	マルチSTOUオイル(10W-30)	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CD級オイルを使用してください。
	全 農	クミアイエンジンオイル(ディーゼル用)	
	三 菱 石 油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル 油圧兼用 (油圧兼用パワステオイル)	純 正 油	マルチGBオイル	(80W)
	純 正 油	マルチSTOUオイル	(10W-30)
	全 農	クミアイトラクターオイル	(80W)
	三 菱 石 油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
	三 菱 石 油	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W-30)
	日 本 石 油	アントイルB	(80W)
	昭和シェル石油	ギヤオイルHTS-56スーパー	(80W)
グリス (マルチパーパスタイプ)			300時間毎に交換してください。
不凍液 (JIS K2234 2種) (パーマネントタイプ)			工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温-15℃としております。

注) 気温-10℃以下の時、燃料は特3号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

		容 量	種 類
燃 料		42 ℓ	ディーゼル軽油
冷 却 水	ラ ジ エ ータ	4.0 ℓ	清水・不凍液
	サ ブ タ ン ク	0.45 ℓ	清水・不凍液
エ ン ジ ン オ イ ル		5.3 ℓ	
ミ ッ シ ョ ン オ イ ル		27.0 ℓ	
フ ロ ン ト ア ク ス ル オ イ ル		7.5 ℓ	ギヤオイル#90

注) API サービス分類GL-4級以上のオイルで湿式ブレーキ適正であるもの。

4. 各部オイルの点検・交換のしかた

⚠ 危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油はしないでください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



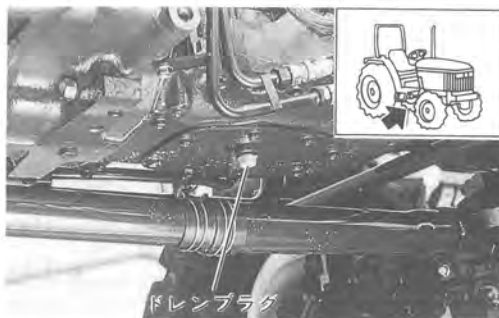
【取扱いの注意】

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

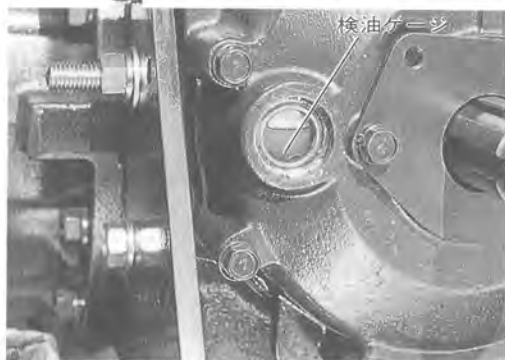
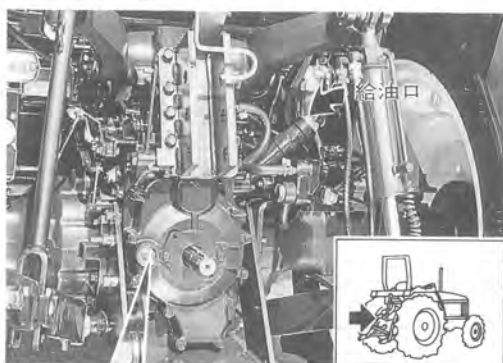
エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。



ミッションオイル

点検

ミッション後部のゲージの上限と下限の間に、オイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油窓規定量まで入れてください。



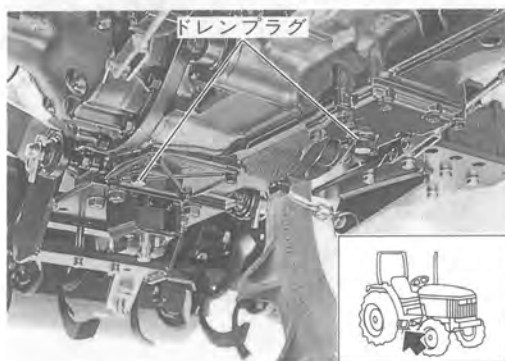
交換

ミッションケース下側のドレンプラグから排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが少し暖かい内に抜くときれいに抜けます。給油は後部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイル、パワステオイルと併用しています。

※ミッションオイルは、必ず純正油または、89ページ「3. 給油・給水一覧表」に指定してあるものを使用してください。



フロントアクスルオイル

点検

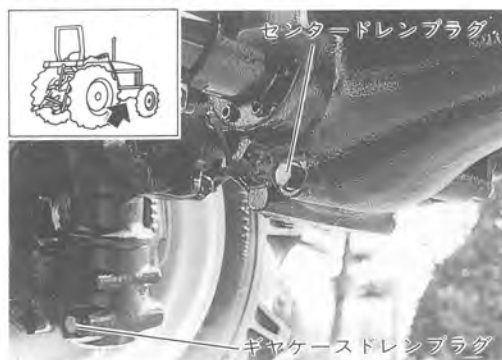
フロントアクスル上部の検油プラグを外してゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



交換

フロントアクスル下部のセンタードレンプラグおよび左右ギヤケース下のドレンプラグから排油してください。

給油は右の給油口から行ってください。

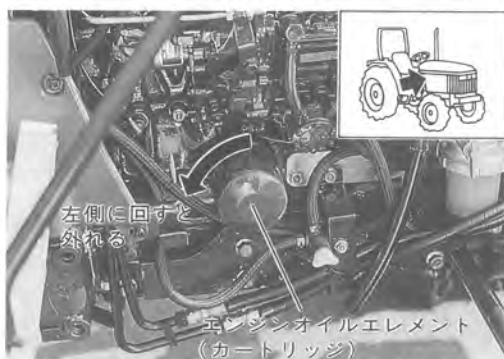


※フロントアクスルオイルは、必ず純正油または、89ページ「3. 給油・給水一覧表」に指定してあるものを使用してください。

5. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取り替えてください。

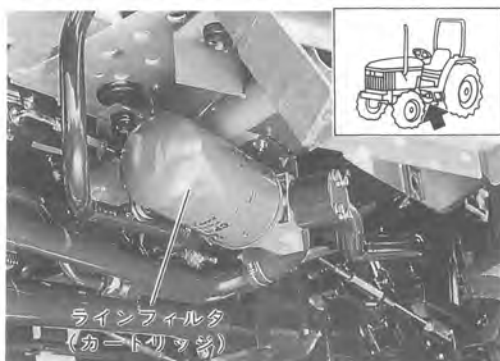


交換

- ①エンジンオイルを抜き取ったあと、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- ②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取り付けてください。
- ③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
- ④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば補給します。

ラインフィルタ (ミッションオイルエレメント)

ラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間ごとに交換してください。



交換

- ①ミッションオイルを抜き取ったあと、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。
- ②新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
- ③ミッションオイル交換後、エンジンをアイドリング運転後、検油窓でオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

燃料コシ器エレメントの清掃・交換

- ①燃料コックを「C」(閉の状態)位置にします。
- ②コシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取り除きます。
- ③コシ器の洗浄が終わったら元通りに取り付け、燃料コックを「O」(開の状態)位置にし、燃料エア抜きを行います。(燃料のエア抜きのしかたは94ページを参照してください。)



- ④コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換してください。

6. 冷却水の点検・交換のしかた

⚠ 危険

- ラジエータが過熱しているときには、絶対にラジエータキャップを開けないでください。

守らないと、熱湯が吹き出しヤケドをおうおそれがあります。

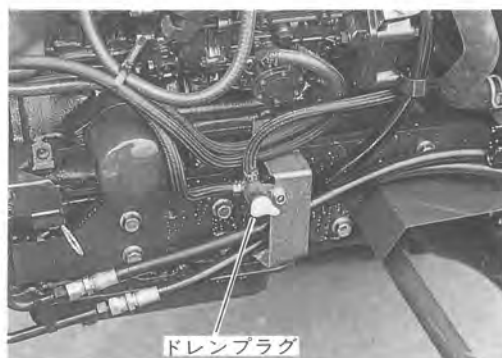
点検

ボンネットおよびエンジンサイドカバー(右側)を開け、サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



交換

- ①ラジエータキャップとラジエータのドレンプラグを外し、エンジン冷却水を全て抜きます。



②水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいつそうきれいになります。

③ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

④ラジエータキャップを取り付け、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

〈不凍液の取り扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などにおいては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温 -15°C としております。

不凍液混合比率表

外気温 $(^{\circ}\text{C})$		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水 (%)	82	73	66	61	55	49
	不凍液 (%)	18	27	34	39	45	51

※新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。

※混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。

※冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)

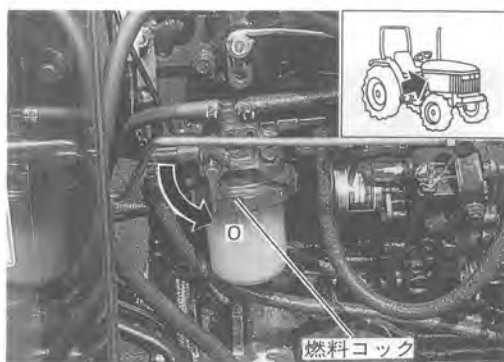
※不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

7. 燃料の空気 (エア) 抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア)抜きをしてください。

①燃料タンク燃料を補給します。

②燃料コックを「O」(開の状態)の位置にします。



③アクセルレバーを最高回転位置にし、「START」位置にしてセルモータを約10秒間回してください。噴射音が聞こえたらエアー抜きは完了です。

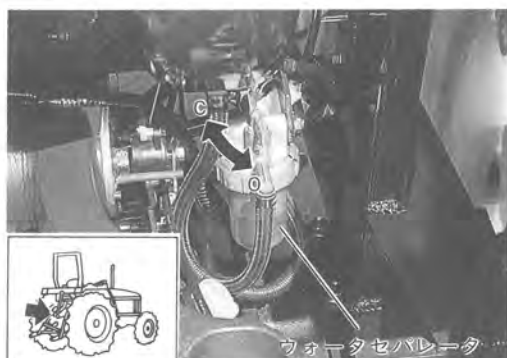
※もし噴射音が聞こえないか、まだエンジンが始動しないときは燃料噴射ポンプ手前の手押しポンプを操作（20～30回）してエアーを抜いてください。

以上で空気（エアー）抜きは完了です。



8. ウォータセパレータの水抜きのしかた

燃料タンクの下方に、ウォータセパレータ（水分離器）があります。ウォータセパレータ内の赤色のOリングが上がってきたら、燃料コックを「C」の位置にして透明のケースを外し、中の水を取除いてください。

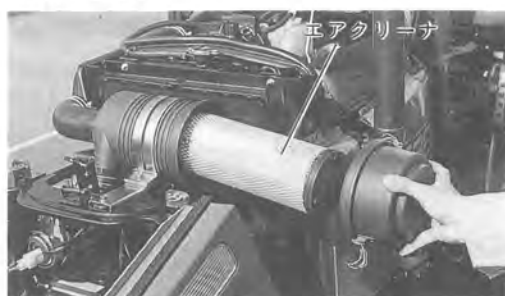


9. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快適にする装置です。ホコリの多い所で作業するときは、50時間ごとに掃除・400時間ごとに交換してください。普通の所でも100時間ごとに掃除・1000時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、1年間でエレメントを交換してください。

〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

- ①フロントグリルを取り外します。
- ②ふたを取り外し、中のエレメントを抜き取ります。



- ③エレメントを軽くたたいて塵を落します。
※フィンに傷を付けないようにしてください。

〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉

ラジエータスクリーンを上方に引き抜いて、ワラズやホコリを取り除いてください。



10. バッテリーの点検のしかた

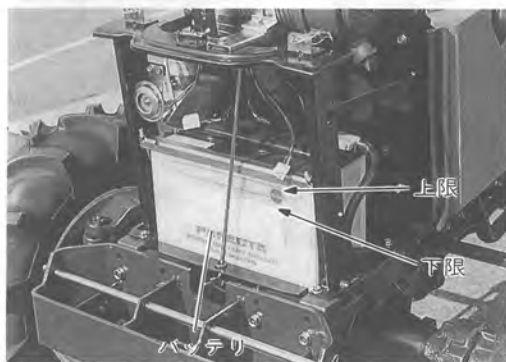
⚠ 危険

- バッテリーの点検時・充電時、火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーの取付けは十側を先に取付け、取外すときは一側から取外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



〈バッテリーの取り付け・取り外しかた〉

取り付けは十側から、取り外しは一側の端子から行います。

【取扱いの注意】

- バッテリー各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

11. パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

燃料パイプ、パワーステアリングホース、ラジエーターホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。



※燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（94ページ参照）

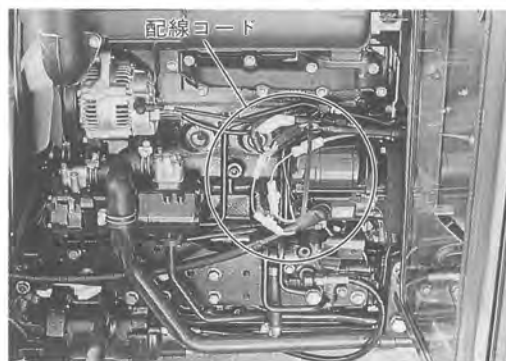
12. 電気配線の点検について

⚠ 警告

- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリーや配線に付着しているワラズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

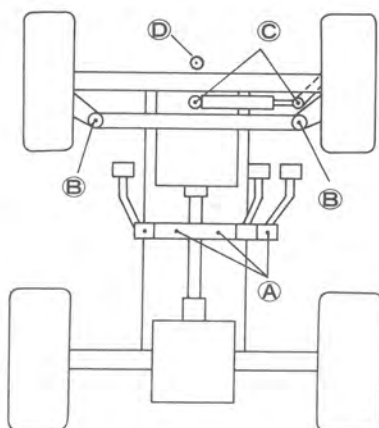
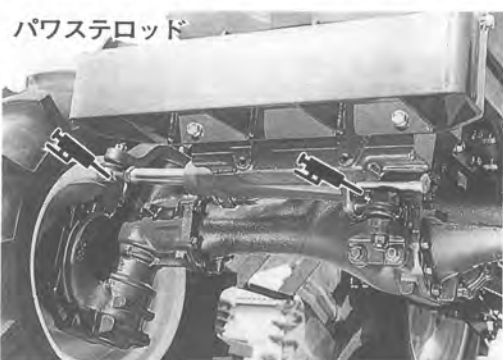
エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。

傷んでいなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに定期点検を受けてください。



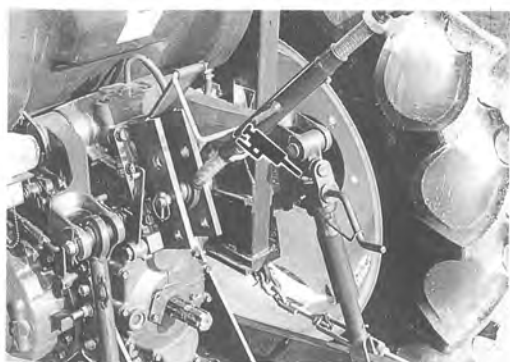
13. グリスアップ（注入）について

グリスアップは、50時間ごとに行ってくださいますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。



1016408C

- A：ブレーキペダルシャフト C：パワステロッド
 B：タイロッド D：フロントセンターピン

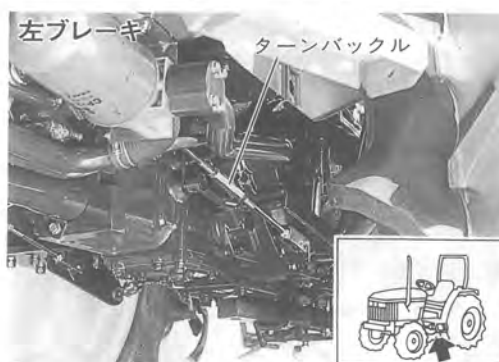
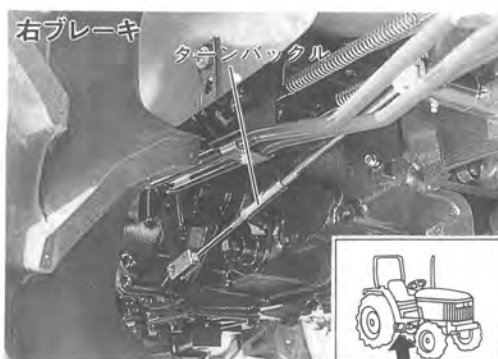


14. ブレーキの点検・調整について

⚠ 警告

- ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- 左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきが生じます。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（30～40 mm）と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が30～40 mmになるように、ブレーキペダル後方にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。また、ブレーキペダルをいっばいに踏み込んだときに、駐車ブレーキレバーが確実にかかることを確認してください。



15. クラッチの点検・調整について

標準仕様

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量（15～25 mm）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、遊び量が15～25 mmになるように、ターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。



キャビン仕様

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量（15～25 mm）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、遊び量が15～25 mmになるように、クラッチペダル部分のゴムマット下部のターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。

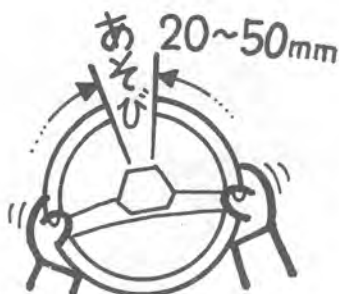


16. ハンドルの点検・調整について

⚠ 警告

- ハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50mmの範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。



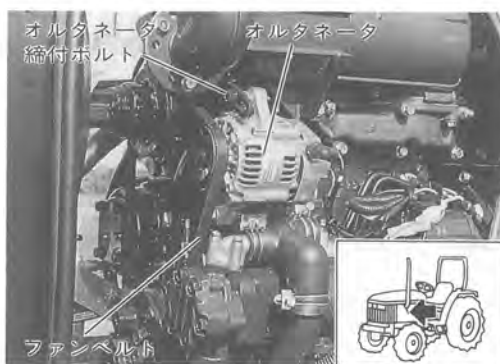
17. ファンベルトの点検・調整について

⚠ 注意

- エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

- ① ボンネットおよび、左側のエンジンサイドカバーを開けます。
- ② ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15mmあるか、ベルトが損傷していないか調べてください。
- ③ たわみが適正でないときはオルタネータ締付ボルトをゆるめ、オイルネータを移動させて張りを調節します。

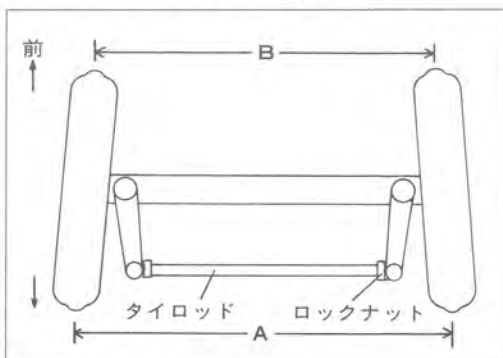
※ オイルネータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップときは、新しいベルトと交換してください。なお新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。



18. トーインの点検・調整について

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られったり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、 $A - B$ が4～8mmであるか調べてください。

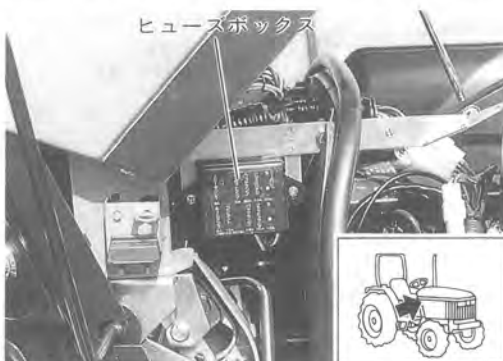
規定寸法でない場合は、左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節します。トーインが4～8mmになったらロックナットで固定してください。



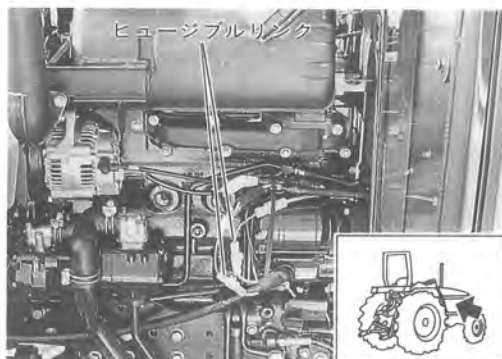
19. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

また、エンジンを停止して、メインヒューズ（ヒューズブルリンク）を点検してください。ヒューズブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被（ビニール）が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



スタータリレー	5 A	パイロットランプ	5 A	ヘッドランプ	20 A	ソレノイド(JAC)	20 A	予備	20 A
ルームランプ	5 A	コンセント	10 A	バックランプ	15 A	フロッギングランプ	10 A	予備	10 A



※ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。

【取扱いの注意】

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

20. タイヤの点検について

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがいないか確認してください。

フロントローダなど前輪に重荷重がかかる場合は、タイヤ側面に表示されている範囲で空気圧を上げて作業してください。

タイヤ空気圧

		空気圧 (kg/cm ²)
標準	前 輪	2.0
	後 輪	1.0
最大	前 輪	3.0
	後 輪	1.6



締付トルクについて

リムとディスクの取付ボルト	17 kgf・m
ホイールとアクスルシャフトの取付ボルト	19 kgf・m

21. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店、または農協で整備してください。

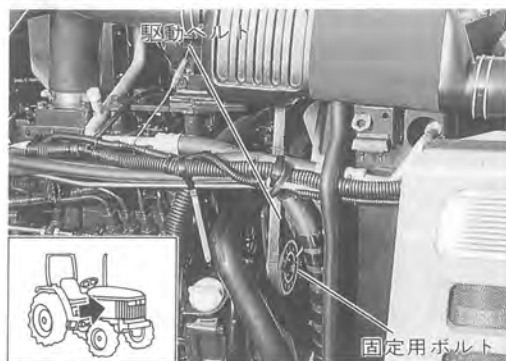
22. キャビン仕様の点検・調節について

クーラーコンプレッサー駆動ベルトの点検について

ベルトテンションとコンプレッサーの中間位置を指で押え、たわみ量が10～15mmであることを確認します。

〈調整方法〉

- ①テンションプーリの固定用ボルトをゆるめます。
- ②テンションプーリを移動させて張り調節します。
- ③調整後テンションプーリの固定用ボルトを締めます。



冷媒量の点検

警告

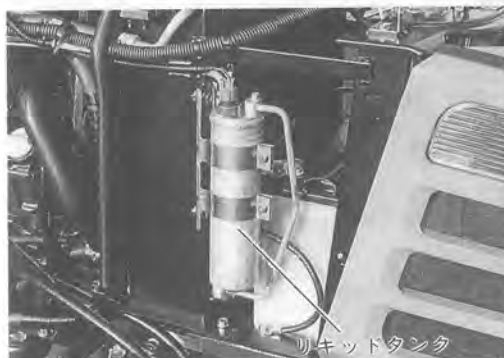
- エンジン運転中は、エンジン回転部に手を触れないように十分注意してください。守らないとケガを負うおそれがあります。

リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを見て冷媒量の点検を行います。

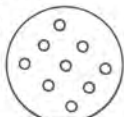
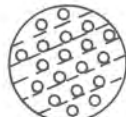
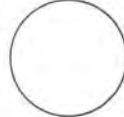
〈準備作業〉

- ① エンジン「ON」でエンジン回転数を2000rpm以上にします。
- ② エアコンスイッチ「ON」、ファンスイッチ「強」にします。

- ③ コントロールパネルの温度コントロールレバーを「冷」位置にします。



冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 コンプレッサ吐出側 温度 70℃ コンプレッサ吸入側 温度 5℃	高圧パイプはあたたかく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。 高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。 高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや温かいが温度差はある。
サイトグラスの状態	ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1  10187200	いつも気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。  霧のようなものが流れているのがわずかに見える。  ファンを最大で回し、窓を全開にしアイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。 油の汚れがはなはだしい所がある。 異常なし。
このエアコンの状態は	冷媒量も不足なく異常はない。	どこか少し漏れがあるかも知れない。 冷媒がほとんど漏れてなくなってしまうようである。 冷媒が過充填になっている。

※1 外気温度が低い時には、媒媒充填量が適正でも気泡が見えることがありますので、ご注意ください。

※2 冷媒がゼロ（無）の場合があるので、高・低圧パイプの温度差（無）を確認のこと…全々冷えない状態にある。

フィルターの清掃のしかた

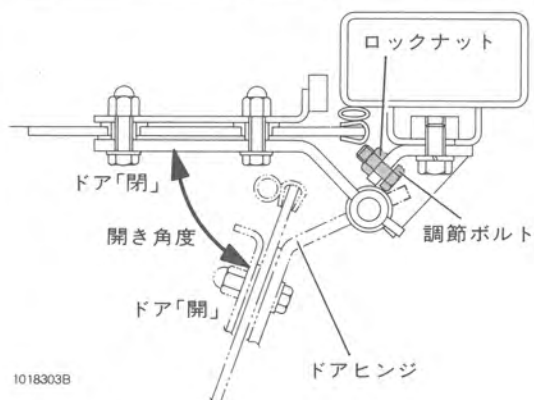
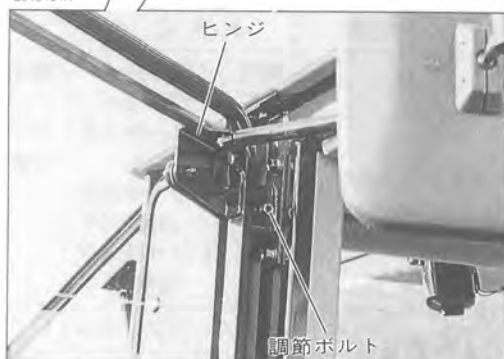
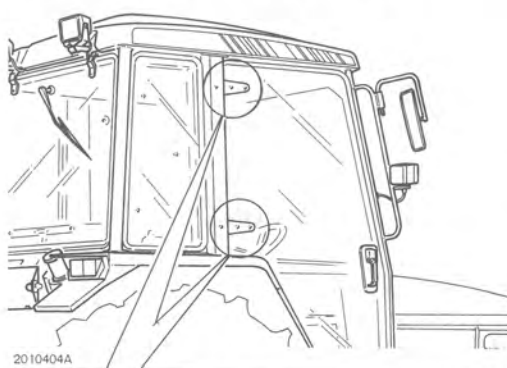
ビスをゆるめて取り外してください。フィルターを300時間ごとに清掃してください。また汚れがひどい場合は、交換してください。



ドアストッパーの調整について

＜ドア開き角度調節ボルト＞

ロックナットを緩めて調節ボルトを回し、手前へ出すとドアの開き角度が小さくなります。左右ドアヒンジの上下にあります。タイヤトレッドを広げたり、水田補助車輪などを付けた場合などに、調節ボルトでドアの開き角度を調節すると便利です。



1018303B

不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	主変速レバー「N」・PTO変速レバーが「N」になっていますか。	主変速レバー「N」・PTO変速レバーを「N」にし、クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、メインスイッチを「START」にしてください。
	バッテリー液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐蝕はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
	デコンプを引っぱると回るが元にもどすと回らないとき。	バッテリーが充電不足ですので充電してください。
	燃料コックが「S」位置になっていませんか。	燃料コックを「O」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていますか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状 況	点 検 箇 所	処 置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついていませんか。	} サービス工場での修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
サーモスタートランプが点灯しない	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中にチャージランプが点灯した	レギュレーターが故障していませんか。	サービス工場での修理してください。
	レギュレーター（カーレントリミッタ）が故障していませんか。	レギュレーター（カーレントリミッタ）を交換してください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損はありませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2. クラッチ・ブレーキ関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
クラッチがすべる、または切れない	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップしてください。

3. 油圧関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
作業機が上がらない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	洗浄または交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブにゴミをかんていませんか。またはOリングは破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。

状 況	点 検 箇 所	処 置
作業機が下らない	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんではいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。

4. 電装関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	ソケットを接続してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャーランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャーユニットが故障していませんか。	フラッシャーユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

5. ロータリ関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
エンジンをかけるとロータリが上がり、リリーフ音が出る	リヤカバーが「上」げの状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。

あ行

アタッチメント

トラクターに後付けする部品。

安全スイッチ

クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ。

安全フレーム

トラクター転倒時、作業者を保護する為の国の検査に合格したフレーム。

か行

クリーブ

超低速の作業速度。

耕深

耕うんする深さ。

さ行

3点リンク

トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行なうリンク。

サーモスタート

寒冷時、エンジンの始動性を良くする為の補助装置。

下げクッション

作業機が地面に接地する直前に作業機をゆっくり下げることにより、作業機を地面に降ろしたときに生じる、土の盛り上がりやトラクターの思わぬ前進を防止する。

ジェネレータ

エンジンからの動力で電気を発生させる装置。

軸距

前・後タイヤの中心間の距離。

ジャストマチック

作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行なう装置。

スーパーヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ。

た行

チェックチェーン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン。

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク。

ドライブシャフト

トラクターの動力を作業機へ伝達する為の軸。

は行

ヒューズブルリンク

電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護を行なう部品。

PTO (パワー テイク オフ)

作業機の動力を取り出すための軸。

や行

揚力

トラクターが作業機を上昇させる為の力。

ら行

リフトアーム

トラクターが作業機を上げる為のアーム。

リフトリンク

リフトアームとロアリンクを連結しているリンク。

リリース弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁。

輪距

左右のタイヤ中心間の距離。

ロアリンク

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本づつある。

仕様

項 目		形 式		備 考			
		MT460N	MT460				
重 量	車 両 重 量 (kg)	1700[1920]		3P付			
	荷重(kg)	前 輪	750[770]				
		後 輪	990[1150]				
	量	附荷重量 (kg)	後 輪	25×2+25×8=250	7タッチメント		
本 体			30×8=240	7タッチメント			
機 関 出 力 (PS/rpm)		46/2700					
形 状		ホイールトラクター					
車 種		大形特殊自動車					
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	ク リ ー プ 切	1速	1.63(0.453)	1.63(0.453)	
				2速	2.27(0.630)	2.27(0.630)	
				3速	3.32(0.921)	3.32(0.921)	
				4速	5.50(1.528)	5.50(1.528)	
				5速	7.65(2.126)	7.65(2.126)	
				6速	11.79(3.105)	11.79(3.105)	
				7速	14.22(3.951)	14.22(3.951)	
				8速	19.78(5.495)	19.78(5.495)	
				9速	28.89(8.026)	28.89(8.026)	最高速度
		ク リ ー プ 入	C1	0.24(0.066)	0.24(0.066)		
			C2	0.33(0.092)	0.33(0.092)		
			C3	0.48(0.134)	0.48(0.134)		
			C4	0.80(0.222)	0.80(0.222)		
			C5	1.11(0.309)	1.11(0.309)		
			C6	1.63(0.452)	1.63(0.452)		
		後 進	ク リ ー プ 切	1速	1.87(0.522)	1.68(0.467)	
				2速	6.34(1.761)	2.34(0.650)	
				3速	16.39(4.552)	3.42(0.949)	
	4速				5.67(1.576)		
	5速				7.89(2.192)		
	6速				11.53(3.202)		
	7速				14.67(4.075)		
	8速				20.40(5.666)		
	9速				29.80(8.277)		
	ク リ ー プ 入		RC1	0.28(0.076)	0.24(0.068)		
			RC2	0.92(0.266)	0.34(0.095)		
			RC3		0.50(0.138)		
		RC4		0.82(0.229)			
		RC5		1.15(0.319)			
		RC6		1.68(0.466)			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3295[3175]		ロアリンクまで		
	全幅(標準性能) (mm)		1615				
	全 高 (mm)		2215[2350]		安全フレーム		
	軸 距 (mm)		1845				
	輪 距	前輪 (mm)	1300				
		後輪 (mm)	1270～1830(16段)				
	最低地上高 (mm)		370				

※[]内はキャビン仕様です。

項 目		形 式		備 考
		MT460N	MT460	
機 関	銘 柄 型 式	4TNE88		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエター		
	シ リ ン ダ 数	4		
	内 径 × 行 程 (mm)	88×90		
	総 排 気 量 (cc)	2189		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
		燃 料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		42	
潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)		5.3
	冷 却 水 量 (ℓ)		4.0	
	電気系統	充電発電機 (V-A)	12-40	
		始動発電機 (V-KW)	12-1.4	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-77(5)	
動力伝動部	主 ク ラ ッ チ		乾式単板	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		27	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		遊星歯車式	
	走行車輪		前 輪 9.5-16 後 輪 13.6-28	
走行装置	か じ 取 装 置		全油圧パワステ	
	足 ブ レ ー キ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		主ブレーキと兼用	
	計 器 類 及 び 照 明 装 置		アワメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモパイロットランプ、クイックターンランプ、ニュートラルランプ(シャトル仕様)、車幅灯、テールランプ、ストップランプ	
動力取出軸	回 転 方 向		右回り	
	軸 寸 法 (mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度 (rpm)	正転	614, 806, 1151	
		逆転		
	その他駆動部		なし	
作業降機装置	けん引装置形式		ピン固定式	
	装着装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	標 準 ロータリ耕幅 (mm)		RE180:1800 RE200:2000	
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	
安全フレーム		2柱可倒式		

項 目		形 式		備 考			
		MT400N	MT400				
重 量	車 両 重 量 (kg)		1680 [1900]		3P付		
	荷重(kg)	前 輪	740 [760]				
		後 輪	940 [1140]				
	附荷重量 (kg)	後 輪	25×2+25×8=250		アタッチメント		
		本 体	30×8=240		アタッチメント		
機 関 出 力 (PS/rpm)			40/2700				
形 状			ホイールトラクター				
車 種			大形特殊自動車				
能 性	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進	ク リ ー プ 切	1速	1.57(0.435)	1.57(0.435)	最高速度
				2速	2.18(0.606)	2.18(0.606)	
				3速	3.18(0.884)	3.18(0.884)	
				4速	5.29(1.469)	5.29(1.469)	
				5速	7.35(2.042)	7.35(2.042)	
				6速	10.75(2.983)	10.75(2.983)	
				7速	13.66(3.796)	13.66(3.796)	
				8速	19.00(5.279)	19.00(5.279)	
				9速	27.77(7.711)	27.77(7.711)	
		前 進	ク リ ー プ 入	C1	0.23(0.063)	0.23(0.063)	
				C2	0.32(0.088)	0.32(0.088)	
				C3	0.46(0.129)	0.46(0.129)	
				C4	0.77(0.214)	0.77(0.214)	
				C5	1.06(0.297)	1.06(0.297)	
				C6	1.57(0.434)	1.57(0.434)	
		後 進	ク リ ー プ 切	1速	1.80(0.501)	1.61(0.449)	
				2速	6.09(1.692)	2.25(0.624)	
				3速	15.75(4.374)	3.29(0.912)	
				4速		5.45(1.514)	
				5速		7.58(2.106)	
				6速		11.08(3.076)	
				7速		14.09(3.915)	
				8速		19.60(5.444)	
				9速		28.63(7.952)	
		後 進	ク リ ー プ 入	RC1	0.27(0.073)	0.23(0.065)	
				RC2	0.88(0.246)	0.33(0.091)	
				RC3		0.48(0.133)	
				RC4		0.77(0.220)	
				RC5		1.10(0.306)	
				RC6		1.61(0.428)	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3295 [3175]		ロアリンクまで		
	全幅 (標準性能) (mm)		1615				
	全 高 (mm)		2180 [2315]		安全フレーム		
	軸 距 (mm)		1845				
	輪 距	前輪 (mm)	1250				
		後輪 (mm)	1270～1830 (8段)				
	最低地上高 (mm)		330				

※[]内はキャビン仕様です。

項 目		形 式		備 考
		MT400N	MT400	
機 関	銘 柄 型 式	4TNE84		
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエター		
	シ リ ン ダ 数	4		
	内 径 × 行 程 (mm)	84×90		
	総 排 気 量 (cc)	1995		
	燃料 系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	ホール	
	燃 料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		42	
機 関	潤滑 系統	潤 滑 方 式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤 滑 油 量 (ℓ)	5.3	
	冷 却 水 量 (ℓ)	4.0		サブタンクを含まず
		充電発電機 (V-A)	12-40	
		始動発電機 (V-KW)	12-1.4	
	電 気 系 統	蓄 電 池 (V-Ah)		12-77(5)
	動力伝動部	主 ク ラ ッ チ	乾式単板	ダイヤフラムクラッチ
		変速機潤滑油量 (ℓ)	27	
		差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)	
走 行 装 置	車 輪	前 輪	8-16	
		後 輪	13.6-26	ハイラゲ
	か じ 取 装 置		全油圧パワステ	
	足 ブ レ ー キ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		主ブレーキと兼用	
	運 転 装 置	計 器 類 及 び 照 明 装 置		アウメータ、水温計、フラッシュバイロットランプ、チャージバイロットランプ、オイルバイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモバイロットランプ、クイックターンランプ、ニュートラルランプ(シャトル仕様)、車幅灯、テールランプ、ストップランプ
		回 転 方 向		右回り
		軸 寸 法 (mm)	35 (JIS軸)	
			正転	614, 806, 1151
		逆転		
	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	オプション
作 業 機 置	装置装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	標 準 ロータリ耕幅 (mm)	RE180:1800		
		RE200:2000		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	
安 全 フ レ ー ム		2柱可倒式		

標準付属品

品 名	個 数	備 考	品 名	個 数	備 考
両口スパナ 8×10	1		ハンマー(1ポンド)	1	
両口スパナ 12×14	1		ジャッキ、ジャッキ棒(2t)	1	
両口スパナ 17×19	1		トップリンクピン	1	
両口スパナ 22×24	1		ボールソケットピン	1	
両口スパナ 27×30	1		取扱説明書	1	
両口スパナ 26×32	1		予備キー	1	
メガネレンチ 17×19	1				
キセルレンチ 26	1				
プライヤ 150	1				
ネジ回し(さしかえ式)	1				
グリスポンプ	1				

農用トラクター(乗用型) 検査成績表

合格 番号	94034	型式名	三菱MT400	
		依頼者名	三菱農機株式会社	
		住 所	島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1	



- 4 輪駆動
- 大型特殊自動車
- 機関呼称出力: 29.4kW {40PS}/2700rpm
- 走行速度段数: 前進15段 後進15段
- クリープ変速付き (シャトル変速)
- 旋回時前輪増速機構付き
- PTO変速段数: 3 段
- パワーステアリング付き
- 水平制御装置付き
- 安全キャブ付きもあり
- 装着安全フレーム: 型式名 三菱 2F460 (合格番号: 94043)

I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ

- 全長: 3.32m (バンパ〜下部リンク後端)
- 全幅: 1.60m (後輪最外側)
- 試験時の前輪輪距1.25m
- 試験時の後輪輪距1.27m
- 全高: 2.21m (安全フレーム上端)
- 質量: 1670kg (付加重錘なし)
- 前輪758kg 後輪912kg
- 軸距: 1.85m
- 輪距: 前輪1.25m (固定)
- 後輪1.26, 1.27, 1.36, 1.37, 1.48, 1.50, 1.51, 1.52, 1.58, 1.59, 1.61, 1.62, 1.73, 1.76, 1.83, 1.85m (16段階)
- タイヤ: 前輪 8-16-4 PR
- 後輪 12.4-28-4 PR
- PTO軸高さ: 0.62m
- PTO軸端〜下部リンク後端: 0.55m

2. 機 関

- 種類: 水冷 4 サイクル 4 気筒ディーゼル
- 呼称出力: 29.4kW {40PS}/2700rpm
- 総行程容積: 1.995 l
- 燃焼室形式: 直接噴射式
- 過給機: なし

3. 伝動装置

- 主クラッチ形式: 乾式複板
- 主変速: 3 段

副変速: 3 段

- クリープ変速: 2 段
- 前進: 15段 (0.2~27.5km/h)
- 後進: 15段 (0.2~28.4km/h)
- デフロック装置: あり (後輪)

4. P T O

- クラッチ形式: 二段踏込式
- 規 格: 6 スプライン軸径35mm
- 回転数 (機関定格回転数のとき): 614, 806, 1151rpm

5. けん引装置

- 形式: スウィングドロワー

6. 作業機昇降装置

- 制御方式: ポジション及び
ドラフトコントロール
- 油圧外部取出口: PF 3 / 8, UNF 3 / 4-16, 各 1 個
- 作業機装着装置: 3 点リンク 1 形

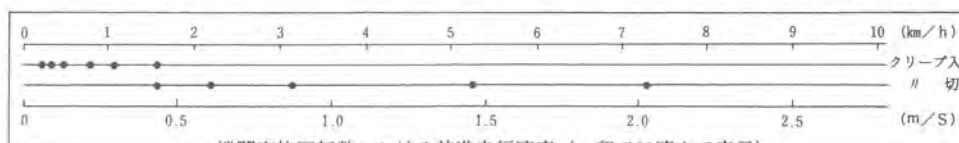
7. かじ取装置

- 形式: 油圧式 (全油圧式)

8. 装着安全フレーム

- 型式名: 三菱 2F460

(合格番号: 94043)



機関定格回転数における前進走行速度 (・印で11速まで表示)

※ 上段: クリープ変速(入) 下段: クリープ変速(切)

II 検 査 成 績

1. PTO性能

- トルクバックアップ比：1.22
- 弾 性 値：2.19
- 最大出力時：

出 力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
28.3kW {38.5PS}	250g/kW・h {184g/PS・h}	614rpm	23%

2. けん引性能（コンクリート上）

条 件	けん引力	けん引出力	速 度
最大けん引力	12.41kN {1265kgf}	6.70kW {9.11PS}	1.94km/h (8速)
7.5km/hに最も近い速度段	11.91kN {1214kgf}	21.1kW {28.7PS}	6.39km/h (11速)
最大けん引出力	7.71kN {786kgf}	21.5kW {29.2PS}	10.03km/h (12速)

3. 作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力：17.46MPa {178kgf/cm²}
- 油圧ポンプ性能：

条 件	流 量	圧 力	出 力
最大出力	29.5l/min	17.06MPa {174kgf/cm ² }	8.38kW {11.4PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	29.8l/min	15.69MPa {160kgf/cm ² }	7.80kW {10.6PS}

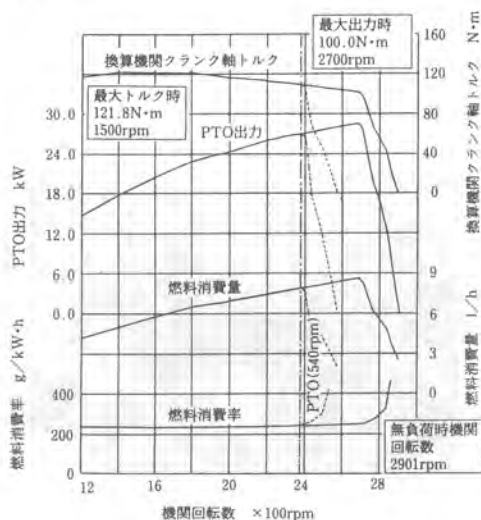
- 揚力（リリーフ弁設定圧力の90%圧力時換算）：

条 件	揚 力
下部リンクヒッチ点	15.25kN {1555kgf} *
フレーム上	11.28kN {1150kgf}

4. 騒音（運転者の耳もと）：91dB(A)

5. 静的横転倒角：42°

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
 弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
 最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
 揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
 騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。



6. 最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.63m

7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

8. その他 旋回時前輪増速機構、水平制御装置は円滑に作動した。

III 付 記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター (乗用型) 検査成績表

合格 番号	94035	型 式 名	三菱MT460	
		依頼者名	三菱農機株式会社	
		住 所	島根県八束郡東出雲町大字掛屋町667番地 1	



- 4 輪駆動
- 大型特殊自動車
- 機関呼称出力：33.8kW {46PS}/2700rpm
- 走行速度段数：前進15段 後進15段
- クリープ変速付き (シャトル変速)
- 旋回時前輪増速機構付き
- PTO変速段数：3 段
- パワーステアリング付き
- 水平制御装置付き
- 安全キャブ付きもあり
- 装着安全フレーム：型式名 三菱 2F460 (合格番号：94043)

I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ

- 全長：3.32m (バンパ〜下部リンク後端)
- 全幅：1.62m (後輪最外側)
- 試験時の前輪輪距1.29m
- 試験時の後輪輪距1.27m
- 全高：2.24m (安全フレーム上端)
- 質量：1698kg (付加重錘なし)
- 前輪765kg 後輪933kg
- 軸距：1.85m
- 輪距：前輪1.20, 1.27, 1.38, 1.48m (4段階)
- 後輪1.26, 1.27, 1.36, 1.37, 1.48, 1.50,
- 1.51, 1.52, 1.58, 1.59, 1.61, 1.62,
- 1.73, 1.75, 1.83, 1.85m (16段階)
- タイヤ：前輪 8-18-4 PR
- 後輪 13.6-28-4 PR
- PTO軸高さ：0.64m
- PTO軸端〜下部リンク後端：0.55m

2. 機 関

- 種類：水冷 4 サイクル 4 気筒ディーゼル
- 呼称出力：33.8kW {46PS}/2700rpm
- 総行程容積：2.189 l
- 燃焼室形式：直接噴射式
- 過給機：なし

3. 伝動装置

- 主クラッチ形式：乾式複板
- 主変速：3 段

- 副変速：3 段
- クリープ変速：2 段
- 前進：15段 (0.2~28.9km/h)
- 後進：15段 (0.2~29.8km/h)
- デフロック装置：あり (後輪)

4. P T O

- クラッチ形式：二段踏込式
- 規 格：6 スプライン軸径35mm
- 回転数 (機関定格回転数のとき)：614, 806, 1151rpm

5. けん引装置

- 形式：スウィングドロバ

6. 作業機昇降装置

- 制御方式：ポジション及び
ドラフトコントロール
- 油圧外部取出口：PF 3 / 8, UNF 3 / 4-16, 各 1 個
- 作業機装着装置：3 点リンク 1 形

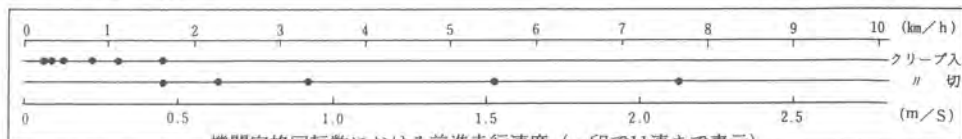
7. かじ取装置

- 形式：油圧式 (全油圧式)

8. 装着安全フレーム

- 型式名：三菱 2F460

(合格番号：94043)



機関定格回転数における前進走行速度 (・印で11速まで表示)

※上段：クリープ変速(入) 下段：クリープ変速(切)

II 検 査 成 績

1. PTO性能

- トルクバックアップ比: 1.22
- 弾 性 値: 2.19
- 最大出力時:

出 力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
32.3kW {43.9PS}	247g/kW・h {182g/PS}	609rpm	25%

2. けん引性能 (コンクリート上)

条 件	けん引力	けん引出力	速 度
最大けん引力	13.03kN {1329kgf}	7.37kW {10.0PS}	2.04km/h (8速)
7.5km/hに最も近い速度段	13.30kN {1356kgf}	24.0kW {32.6PS}	6.49km/h (11速)
最大けん引出力	8.92kN {910kgf}	25.6kW {34.8PS}	10.34km/h (12速)

3. 作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力: 17.46MPa {178kgf/cm²}
- 油圧ポンプ性能:

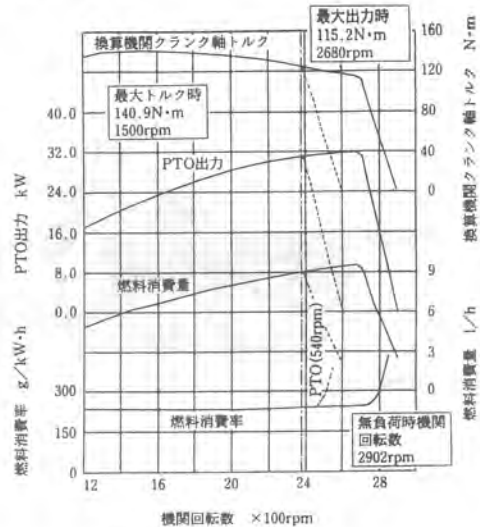
条 件	流 量	圧 力	出 力
最大出力	29.5 l/min	17.06MPa {174kgf/cm ² }	8.38kW {11.4PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	29.8 l/min	15.69MPa {160kgf/cm ² }	7.80kW {10.6PS}

- 揚力 (リリーフ弁設定圧力の90%圧力時換算):

条 件	揚 力
下部リンクヒッチ点	15.25kN {1555kgf}
フレーム上	11.28kN {1150kgf}

4. 騒音 (運転者の耳もと): 91dB(A)

5. 静的横転倒角: 41°



※ 调速レバー位置
実線: 全開位置
点線: 標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図 PTOの性能曲線

6. 最小旋回半径 (コンクリート上)

ブレーキ使用時: 2.66m

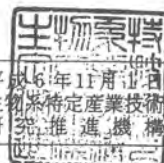
7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー, 昇降部の落下防止装置, その他の装置

8. その他 旋回時前輪増速機構, 水平制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値: (最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。
排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力: コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力: 最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で, けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III 付 記

本機は, 高性能農業機械等の試験研究, 実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第II類に属するものである。



農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成6年11月11日
生物系特定産業技術
研究推進機構



型式名: 三菱 CF460

合格番号: 9 4 0 4 2

種類: 安全キャブ

依頼者名: 三菱農機株式会社

住所: 島根県八束郡東出雲町大字揖屋町
667番地 1

I 装着可能トラクター

1. 型式名

三菱 MT460

三菱 MT400

2. 主要諸元

■型式名	: 三菱 MT460	三菱 MT400
■種類	: 4 輪駆動	4 輪駆動
■質量 (キャブ付き)	kg : 1932	1861
■軸距	mm : 1845	1845
■機関出力 / 回転数	kW(PS) / rpm : 33.8(46) / 2700	29.4(40) / 2700

II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウィンドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)、暖冷房装置、電動ワイパー(前・後)

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ	:	96.0	cm
■フットプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ	:	144.5	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅	:	91.0	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅	:	94.5	cm
■戸口の幅	(上部)	:	60.5 cm
	(中部)	:	74.5 cm
	(下部)	:	26.5 cm
■戸口の高さ	(フットプレートから)	:	139.0 cm
■最低位ステップの高さ		:	50.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	(キャブ上端まで)	:	236.0 cm
■キャブの全幅		:	122.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		:	26.0 cm

※ 1. 三菱 MT460 (タイヤサイズ : 前輪 9.5-16 後輪 13.6-28) に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式 : 難波プレス工業, N290410

4. 主要材料

- 主フレーム： STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC
- 装着ブラケット： STK 400, SS 400, SPHC
- 組立・装着ボルト： S45C, SCM435

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基準質量： 2000 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 3.22 kJ (328 kgf・m)
側部負荷 3.89 kJ (396 kgf・m)
- 圧壊力： 29.42 kN (3000 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

- 後部（前方へ）： 右側 8.5 cm 左側 4.0 cm
- 前部（後方へ）： 右側 -7.0 cm 左側 -3.5 cm
- 側部（右側方へ）： 前側 8.0 cm 後側 11.5 cm
- 上部（下方へ）： 前部 右側 5.0 cm 左側 1.5 cm
後部 右側 0.5 cm 左側 0.5 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差： 8.0 cm

2. 騒音 ※

- 83.5 dBA (三菱 MT460) 84 dBA (三菱 MT400)

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表		平成6年11月1日 生物系特定産業技術 研究推進機構
	型式名: 三菱 2F460	
	合格番号: 94043	
	種類: 安全フレーム(2柱式)	
	依頼者名: 三菱農機株式会社 住所: 島根県八束郡東出雲町大字掛屋町 667番地1	

I 装着可能トラクター

1. 型式名	三菱 MT460	三菱 MT400
2. 主要諸元		
■型式名	: 三菱 MT460	三菱 MT400
■種類	: 4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg : 1704	1671
■軸距	mm : 1845	1845
■機関出力/回転数	kW[PS]/rpm : 33.8(46)/2700	29.4(40)/2700

II 構造の概要

- 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。
- 主な装備

シートベルト(2点式)
- 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ	: 98.0 cm
■スートプレートから屋根部材(下面)までの高さ	: 146.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	: 76.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: — cm
■戸口の幅	(上部) : — cm
	(中部) : — cm
	(下部) : — cm
■戸口の高さ	(フートプレートから) : — cm
■最低位ステップの高さ	: 54.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高(屋根部材上面まで)	: 223.5 cm
■フレームの全幅	: 91.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 29.0 cm

※1. 三菱 MT460(タイヤサイズ: 前輪 8-18 後輪 13.6-28)に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式: 難波プレス工業, N49720

4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム： STKR 400, STKM 11A, SS 400, SPHC
- 装着ブラケット： SS 400, A-36-84A-MOD (SS 400 相当)
- 組立・装着ボルト： S45C, SCM 435

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基準質量： 1820 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 2.93 kJ {299 kgf・m}
- 側部負荷 3.64 kJ {371 kgf・m}
- 圧壊力： 26.77 kN {2730 kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部(前方へ)： 右側 6.5 cm 左側 5.5 cm
- 側部(右側方へ)： 15.0 cm
- 上部(下方へ)： 右側 0.5 cm 左側 1.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差： 9.0 cm

2. 騒音※

- 91 dBA (三菱 MT460) 91 dBA (三菱 MT400)

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

